



取扱説明書
INSTRUCTION MANUAL

取扱説明書

電気ケトル

JP

MANUALE D'USO

BOLLITORE

IT

INSTRUCTION MANUAL

KETTLE

EN

MANUEL D'UTILISATION

BOUILLLOIRE

FR

GEBRAUCHSANWEISUNG

WASSERKOCHER

DE



この度は、SMEG 社と Dolce & Gabbana 社のコラボ製品
「Sicily is my love special edition」をお買い上げ頂き、誠に
ありがとうございます。

SMEG と Dolce & Gabbana それぞれの良さを組み合わせた、
Made in ITALY の Original Collection が誕生しました。

Dolce & Gabbana による独特なデザインが特徴の、SMEG
社製小型家電製品です。

Dolce & Gabbana の世界観を、十分にお楽しみください。

1 注意事項	6
1.1 はじめに	6
1.2 取扱説明書に関する注意	6
1.3 取扱に関する注意	6
1.4 安全に関する注意	9
1.5 メーカー責任	9
1.6 製品ラベルに関する注意	9
1.7 廃棄に関する注意	
2 本製品について	10
2.1 各部名称	10
2.2 各部について	11
3 ご使用について	13
3.1 初めてお使いになる前に	13
3.2 使い方	14
4 お手入れについて	16
4.1 注意事項	16
4.2 表面のお手入れ	16
4.3 毎日のお手入れ	16
4.4 フィルターのお手入れ	17
4.5 カルキ除去	18
4.6 故障かな？と思ったら	19

本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。本説明書には、お買い上げいただいた製品のデザイン性と機能性を維持するために必要な内容が記載されています。製品に関する詳細な情報は <http://smeg.jp/> をご覧ください。



注意事項

1 注意事項

1.1 はじめに

本製品をご使用になる際の重要な情報は以下のように分類されています。

注意事項



本製品を安全にお使いいただくための情報と廃棄に関する情報が記載されています。

本製品について



本製品に関する説明が記載されています。

ご使用について



本製品の使い方に関する情報が記載されています。

お手入れについて



本製品のお手入れに関する情報が記載されています。



情報



安全に関する注意事項



ヒント

1.2 取扱説明書に関する注意

本取扱説明書は本製品の一部です。本製品を廃棄するまで、大切に保管してください。

1.3 取扱に関する注意

- 本取扱説明書に記載されている「注意事項」は必ずお守りください。
- 本製品は必ず屋内で使用してください。
- 本製品は、個人もしくはご家庭で使用することを目的に設計されています。目的以外のご使用はお控えください。本製品は以下の環境でもご使用いただけます。
 - ▶ 会社や事務所、店舗などの従業員用として
 - ▶ 農場や農場の宿泊施設内
 - ▶ 旅館やホテル、ペンション、民宿などの客室
- 本製品はお湯を沸かす目的で設計されています。本来の目的以外のご使用はお控えください。
- 本製品に、タイマーや外部リモコン操作機能はありません。
- 本製品でお子様が遊ばないようにご注意ください。また、お子様の手の届かない場所に保管してください。《小さなお子様及び障害を持つ方への配慮》
- 感電、火傷等の事故防止のため、8歳未満のお子様や、身体的障害・精神的障害・知的障害・発達障害等をお持ちの方による、単独でのご使用はお控えください。お使いになる場合は、安全な使用責任を取る事ができる大人の方が必ず補助を行うようにしてください。



1.4 安全に関する注意

本製品を安全にご使用いただくため、以下の注意事項をお守りください。

- ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
- 濡れた手で、電源プラグの抜き差しはしないでください。感電の原因になります。
- 電源コードや電源プラグを破損させるようなことはしないでください。
- 電源コードは傷付けたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、重たい物を載せたり、束ねたりしないでください。傷んだまま使うと感電、ショート、火災の原因になります。
- 電源プラグに付着したほこりは定期的に取り除いてください。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。
- 本製品の分解や修理、改造は絶対に行わないでください。
- 万が一、本製品から発煙・発火した場合、消火には絶対に水を使用しないでください。まずは本製品の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、不燃性のシートでトースター全体を覆ってください。
- 本体、電源コード、電源プラグを水やその他の液体物に浸けたり、濡らしたりしないでください。感電、ショートのおそれがあります。
- 電源コードを鋭利な物の近くに置いたり、引きずったりしないでください。
- 電源コードに、高温の油が付着しないよう注意してください。
- 食器洗い機で本製品を洗わないでください。

- 使用中のガスレンジや高温になっている IH 調理器の近く、もしくは加熱されたオーブンの中に置かないでください。
- 湿気の多い場所で使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- 故障した場合は、専門技術者による修理が必要です。必ず「お客様相談窓口」に修理を依頼してください。
- 使用中、電源コードや電源プラグが異常に熱くなる時、もしくは電源コードが破損している場合は、ショートや発火するおそれがありますので、直ちに使用を中止し「お客様相談窓口」にご相談ください。



注意事項

本製品に関する注意

- 湯沸かし中または湯沸かし直後は、本体外側が熱くなりますので、ハンドルを持つようにしてください。
- 電気ケトル本体内部ヒーター部は、使用後も熱が残ることがあります。火傷にご注意ください。
- ハンドルがゆるんでしまった場合は、電気ケトルを使用しないでください。
- 本製品は、必ず傾斜の無い平らな場所でお使いください。
- ご使用の際は、電気ケトル本体内部ヒーター部が完全に浸るまで水を入れてから、電源レバーをオンにしてください。
- ご使用の前にふたがしっかり閉まっていることを確認の上、電気ケトルの電源レバーをオンにしてください。
- 電気ケトルを使用している時は、その場から離れないでください。
- 最大（1.7L）の目盛り以上の水を入れしないでください。沸騰したお湯がふき出して火傷、感電、怪我をするおそれがあります。
- 湯沸かし中は、ふたを確実に閉めてください。ふたを開けたまま使用すると、お湯が流れ出て火傷をすることがあります。
- 湯沸かし中は、電気ケトルのふたを絶対に開けないでください。
- 電気ケトルを使用していない時、お手入れを行う時、故障した場合はコンセントから電源プラグを抜いてください。お手入れは本製品が冷めてから行ってください。
- 電気ケトルを使用する際は、必ず付属のカルキフィルターをセットしてください。
- 電気ケトルはお湯を沸かすために使用してください。牛乳を温める、スープを作るなど湯沸かし以外の目的で使わないでください。
- 電気ケトルは必ず付属の電源プレートの上で使用してください。
- お手入れの際は、柔らかい布と薄めた中性洗剤を使用してください（アルカリ性洗剤は本製品を傷める可能性があるので使用しないでください）。
- 電気ケトル内のお手入れに、金属製の工具や研磨性の高いスポンジを使用しないでください。
- 電気ケトル内にカルキが付着することがありますので、使用後は電気ケトル内に水またはお湯を残さないでください。
- 他のメーカーの電源プレートと組み合わせ使用しないでください。
- メーカーが推奨する純正部品のみを使用してください。メーカーが推奨していない交換部品の使用は、火災や感電、人的損害を招くおそれがあります。
- 本製品は、8歳未満のお子様の手の届かない場所に保管してください。
- 8歳未満のお子様単独でのご使用はお控えください。本製品をご使用もしくはお手入れする際は、安全な使用責任を取る事ができる大人の方が必ず実施、もしくは補助を行うようにしてください。



1.5 メーカー責任

メーカーでは以下に起因する損害について、一切の責任を負いません。

- 本製品の本来の目的とは異なる使用
- 取扱説明書を読んでいない
- 本製品の改造
- 非純正部品の使用
- 安全に関する注意事項の不遵守

1.6 製品ラベルに関する注意

製品ラベルには「製品型番」「電気的仕様」「シリアル番号」「PSE マーク」「販売元会社名」が記載されています。絶対に剥がさないでください。

- 使わなくなった本製品を他の家庭ごとと一緒に廃棄しないでください。正しい廃棄を行うことで材料をリサイクルしたり、環境を保護したりすることができます。
- 本製品の梱包材には、リサイクル可能な非汚染物質を使用しています。



プラスチック製梱包材 窒息の危険

- 梱包材もしくはその一部を放置しないでください。
- ビニール袋でお子様が遊ばないよう注意してください。

1.7 廃棄に関する注意



本製品を廃棄される場合は、お住まいになられている自治体等のルールに従って適切に処分してください。



感電の危険

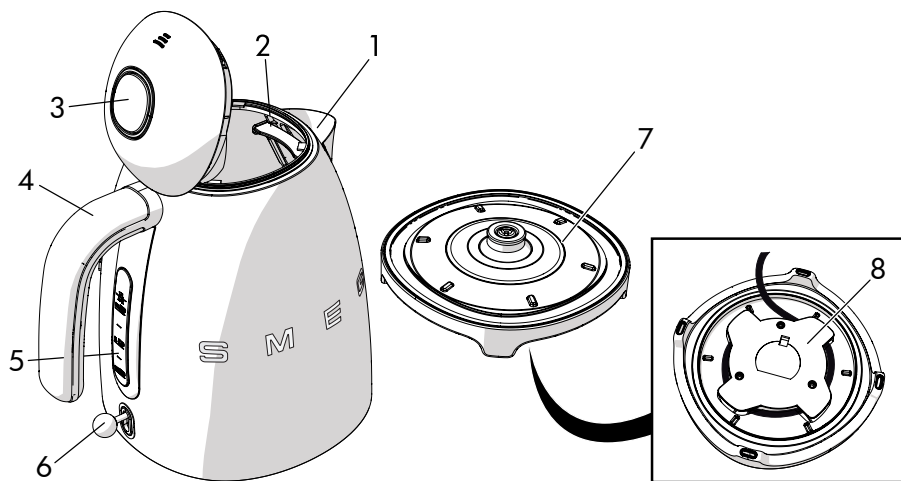
- 廃棄の際は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグや電源プレートに水等の液体物をこぼさないでください。



本製品について

2 本製品について

2.1 各部名称

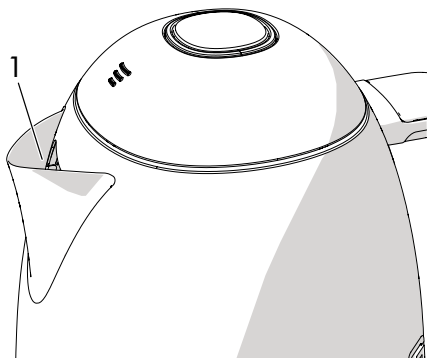


KLF03 モデル - 電気ケトル

- 1 注ぎ口
- 2 カルキフィルター
- 3 プッシュアップ式ふた
- 4 ハンドル
- 5 水量目盛り
- 6 スイッチレバー
- 7 電源プレート
- 8 コード巻取りベース（電源プレート裏）

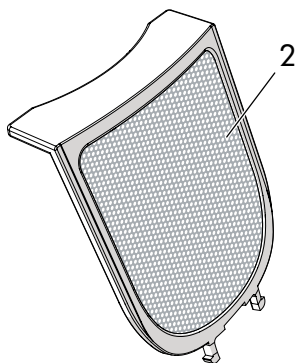
2.2 各部について

注ぎ口 (1)



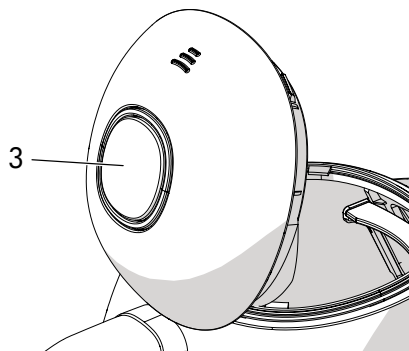
注ぎ口はステンレス製で広くなっており、垂れずに注げるよう工夫されています。

カルキフィルター (2)



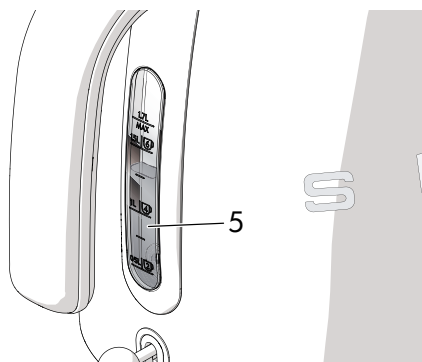
ステンレス製のフィルターが注ぎ口に取り付けられています。これにより、水に含まれるカルキを除去します。

プッシュアップ式ふた (3)



ふたにはプッシュアップボタン (3) が付いており、高温の蒸気の急な吹き出しを防ぐため、ゆっくり開閉します。

水量目盛り (5)

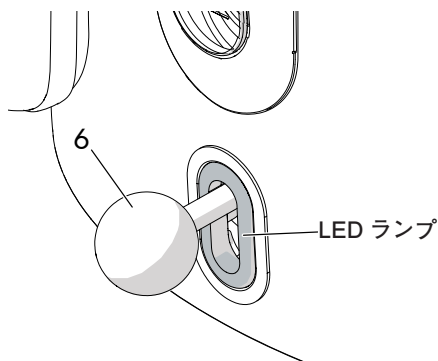


水量目盛りには、最小容量の0.5リットルから最大容量の1.7リットルまで、水の量を示す目盛りが付いています。さらにその量に相当するカップ数が表示されています。



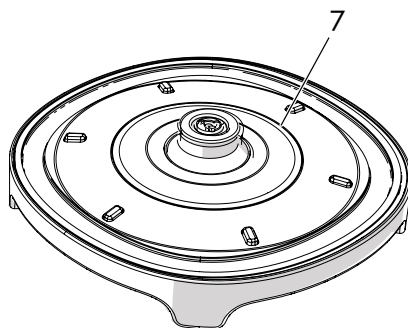
本製品について

スイッチレバー (6)



お湯を沸かしたり、中断したりするスイッチレバーです。電気ケトルを使用している間は、LED ランプが白く点灯します。

電源プレート (7)



360 度どの角度でも電気ケトルを電源プレートにセットすることができます。

- 本製品への損傷を避けるため、この電気ケトルには安全装置が付いており、水を入れずに誤ってスイッチを入れてしまった（空だき）場合、レバーを自動的に停止位置に戻すことで事故を防止します。
この場合、電気ケトルが冷めるのを待ってからお湯を沸かしてください。

3 ご使用について



感電の危険

- 電源プラグは適切なコンセントに差し込んでください。
- 変換アダプタを使用しないでください。
- 延長コードを使用しないでください。
- この注意が守られない場合、感電や火災、死亡事故などを招くおそれがあります。
- 電源プラグや電源プレートに液体をかけないでください。

3.1 初めてお使いになる前に

1. すべての梱包材を剥がしてから、湿らせた布で電気ケトルの外側部分をきれいにします。
2. 注ぎ口の後ろにあるフィルターを取り外して、水洗いします。
3. フィルターを正しい位置に戻します。
4. 電源プレートから電気ケトルを取り外し、ボタンを押してふたを開けたら、最大容量（1.7ℓ）まで水を入れます。
5. ふたを閉めて、電気ケトルを電源プレートにセットして、レバーを押しながら、湯沸かしを開始します。
6. お湯が沸騰するのを待ち、お湯が沸いたら、そのお湯を捨て電気ケトルを空にします。この工程を少なくとも3回繰り返してください。



高温注意

- 電気ケトル本体の表面は高温になりやすくなっています。ご注意ください。



ご使用についてのヒント

- お湯以外のものを沸かさないでください。故障の原因となります。
 - 必要な量のお湯を沸かしてください。
 - 浄水器を通した水やミネラルウォーターをご使用いただくと更に美味しいお飲み物をお楽しみいただけます。
- 《本製品を長くご使用いただくため》
- 使用後は必ず、電気ケトルの中に残った水を捨て空にしてください。
 - 電気ケトル内部に溜まったカルキは定期的に除去してください。

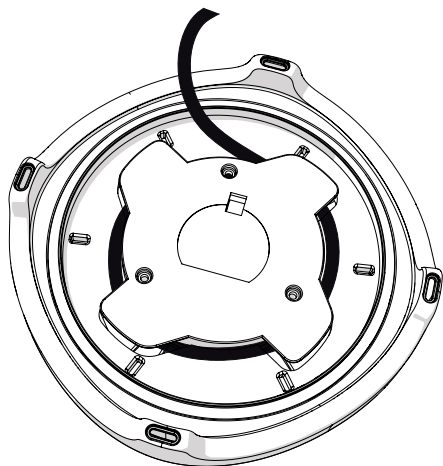
- 電気ケトル内側のわずかな白っぽい輪やしみは、梱包前の機能確認テストの水の跡です。衛生上の問題はありません。



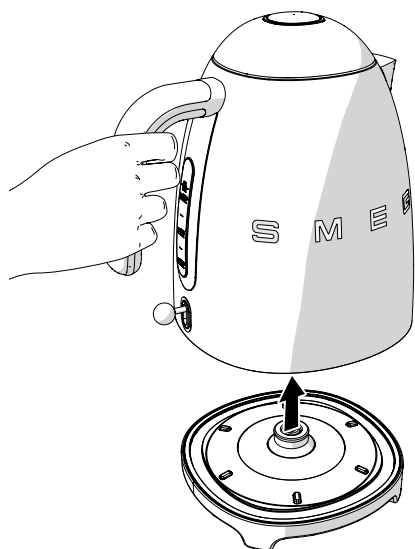
ご使用について

3.2 使い方

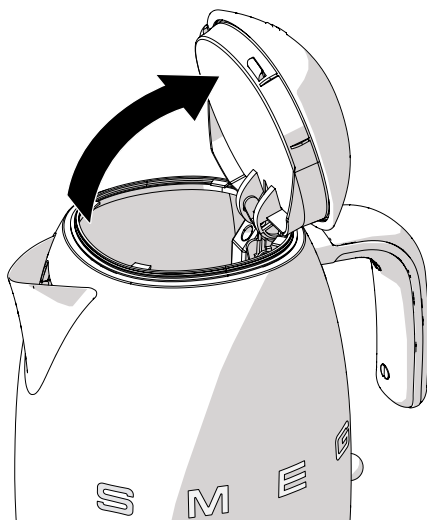
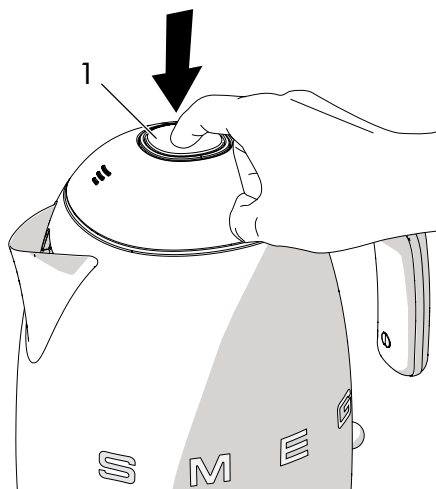
1. 必要に応じて、コードを電源プレート裏のコード巻取りベースに巻き付けて長さを調整してください。



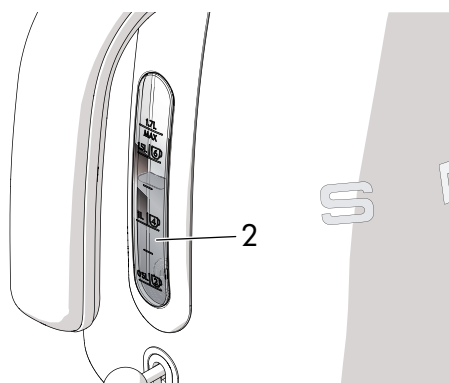
2. 電気ケトルのハンドルを持ち、電源プレートから取り外します。



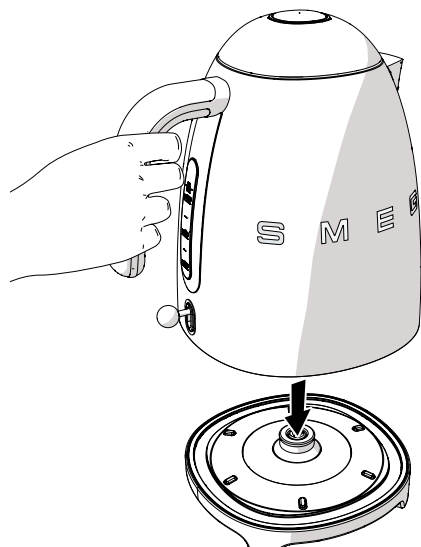
3. ボタン(1)を押して、ふたを開きます。



4. 水量計 (2) を見ながら、必要な量の水を入れます。

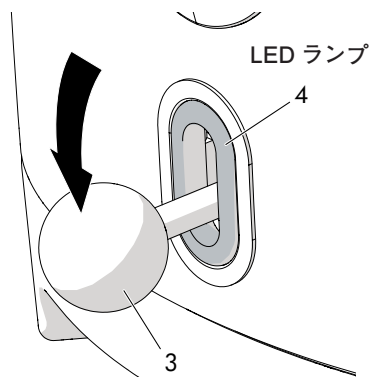


5. ふたを閉じて、電気ケトルを電源プレートの上にセットします。



6. 電源プラグをコンセントに差し込みます。

7. レバー (3) を押し下げて、電気ケトルのスイッチをオンにします。LED ランプが白く点灯します。



8. 沸騰したら、レバーが自動で停止位置に戻り、LED ランプが消えます。
9. 電気ケトルのハンドルを持って、カップにお湯を注ぎます。



火傷の危険

- しぶきが飛び散ったり、お湯が漏れたりするのを防ぐため沸騰したら数秒間待ってからゆっくりお湯を注いでください。
- ふきこぼれや、お湯を注ぐ際の火傷を避けるため最大容量（1.7 リットル）を超える水を電気ケトルに入れないでください。
- 沸騰したお湯のしぶきによる火傷を避けるため、電気ケトルを傾け過ぎないようにしてください。
- ふたに顔を近づけすぎないようにください。高温の蒸気により、火傷するおそれがあります。



お手入れについて

4 お手入れについて

4.1 注意事項



感電の危険

- 電気ケトルのお手入れを始める前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。



火傷の危険

- お手入れは本製品が冷めてから行ってください。



表面を破損する危険

- 本製品のお手入れに高圧スチームを使用しないでください。
- 塩素、アンモニアを使用した洗剤または漂白剤を使用しないでください。
- 研磨剤もしくは腐食性洗剤、粉末洗剤、染み抜き剤、スチール製たわし等を使用しないでください。
- 表面が粗いもの、研磨性の高いもの、もしくは鋭利な金属へらを使用しないでください。

4.2 表面のお手入れ

本製品の表面をきれいな状態に保つために、使用後は本製品が冷めてから表面の汚れをふき取ってください。

4.3 毎日のお手入れ

研磨材の入った洗剤や塩素系の洗剤は使用しないでください。

がんこな汚れには、湿らせた布に中性洗剤を含ませて拭き取ってください。その後、乾いた柔らかい布で水気を取ってください。

フィルターのお手入れについては、「4.4 フィルターのお手入れ」を参照してください。



ご使用についてのヒント

長期間電気ケトルを使用していなかった場合は、「3.1 初めてお使いになる前に」の2から6のお手入れを行ってください。

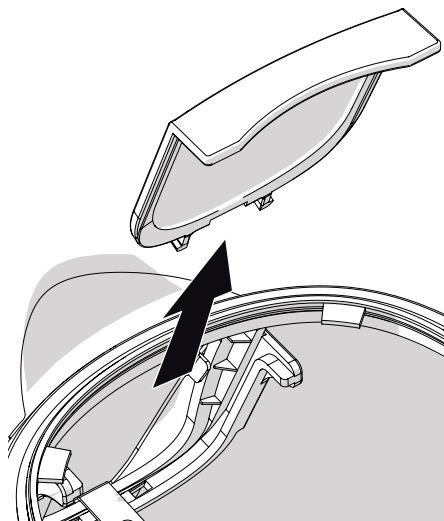
4.4 フィルターのお手入れ



重要

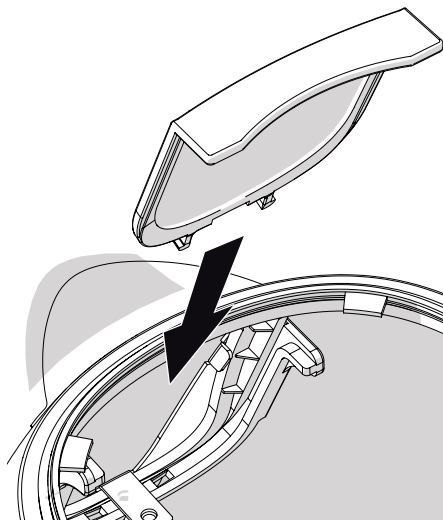
フィルターを洗う際は、手を清潔にして石鹸やクリームなど水を汚す可能性のあるものがフィルターに付着しないように注意してください。

1. ふたを開いて、フィルターを取り外します。



2. フィルターは、柔らかいブラシを使用し水洗いしてください。

3. 電気ケトルの注ぎ口の後ろにある指定の位置にフィルターをセットし直します。



4.5 カルキ除去

電気ケトル内に溜まったカルキを定期的に除去することで、性能の劣化を防ぎ、本製品の寿命を延ばします。また、電気代の節約にもつながります。電気ケトルのカルキ除去には一般的なカルキ除去剤をご利用ください。

この場合、カルキ除去剤を投入し、しばらくそのままにしてから十分な水でしっかりすすぎ洗いしてください。カルキ除去剤が残っている可能性もあるため、お湯を沸かして捨てる工程を少なくとも2回行ってください。

カルキ除去剤の代わりにお酢を使用することもできます。

手順は以下の通りです。

1. ケトルに水を1ℓ入れ、沸騰させます。
お酢を0.1～0.5ℓ加えます。
2. お湯を沸かして、一晩そのままにしておきます。
3. 翌日電気ケトルの水を捨て空にします。
4. 電気ケトルに水を入れて、沸かします。
5. 沸騰したら、お湯を捨て再び電気ケトルを空にします。この工程を少なくとも2回繰り返してください。



ご使用についてのヒント

- カルキが溜まると、沸騰する前に電気ケトルが停止したり、沸騰するまでに要する時間が延びることがあります。
- 毎日使用する場合やお湯の出具合が低下した場合は、電気ケトルとフィルターのカルキ除去をよりこまめに行ってください。
- 地域によっては水の硬度が高く、水が濁っていることがあり、電気ケトル内に跡が残ることがあります。この場合は、電気ケトル内の汚れをこまめに取り除き浄水を使うようにしてください。

4.6 故障かな？と思ったら

問題	原因	対策
お湯の出具合が悪い	フィルターにカルキが詰まっている	フィルターを掃除して、正しい位置にセットしてください。
お湯が沸く前に電気ケトルが止まってしまう	ケトルの底にカルキが溜まっている	こまめにカルキ除去を行ってください。
	入れた水の量が少なすぎる	少なくとも最低容量までは水の量を増やしてください。
	空だき防止機能により安全装置が働いている	電気ケトルが冷めるのを待ってから、再度お湯を沸かしてください。
スイッチが入らない	電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていない	電源プラグをコンセントに接続してください。変換アダプタや延長コードを使用しないでください。
	コードが破損している	「お客様相談窓口」に連絡して修理を依頼してください。

Gentile cliente,

*La ringraziamo per aver acquistato un piccolo elettrodomestico della
speciale edizione Smeg – Dolce&Gabbana, Sicily is my love.*

*Smeg e Dolce&Gabbana uniscono le proprie anime artistiche, dando vita a una
collezione unica, originale Made in Italy, realizzata da Smeg con un'inconfondibile
creatività firmata Dolce&Gabbana.*

*AugurandoLe di apprezzare appieno le funzionalità del Suo elettrodomestico,
Le porgiamo i nostri più cordiali saluti.*

SMEG S.p.A.

1 Avvertenze	22
1.1 Introduzione	22
1.2 Questo manuale d'uso	22
1.3 Destinazione d'uso	22
1.4 Avvertenze generali di sicurezza	23
1.5 Responsabilità del costruttore	25
1.6 Targhetta di identificazione	25
1.7 Smaltimento	25
2 Descrizione	26
2.1 Descrizione del prodotto	26
2.2 Descrizione delle parti	27
3 Uso	29
3.1 Prima del primo utilizzo	29
3.2 Funzionamento	30
4 Pulizia e manutenzione	32
4.1 Avvertenze	32
4.2 Pulizia delle superfici	32
4.3 Pulizia ordinaria giornaliera	32
4.4 Pulizia del filtro	33
4.5 Decalcificazione	34
4.6 Cosa fare se....	35

ISTRUZIONI ORIGINALI

Consigliamo di leggere attentamente questo manuale, che riporta tutte le indicazioni per mantenere inalterate le qualità estetiche e funzionali dell'apparecchio acquistato.

Per ulteriori informazioni sul prodotto: www.smeg.com



Avvertenze

1 Avvertenze

1.1 Introduzione

Informazioni importanti per l'utente:

Avvertenze



Informazioni generali su questo manuale d'uso, di sicurezza e per lo smaltimento finale.

Descrizione



Descrizione dell'apparecchio.

Uso



Informazioni sull'uso dell'apparecchio.

Pulizia e manutenzione



Informazioni per la corretta pulizia e manutenzione dell'apparecchio.

**Avvertenza di sicurezza**

**Informazione**

**Suggerimento**

1.2 Questo manuale d'uso

Questo manuale d'uso costituisce parte integrante dell'apparecchio e deve essere conservato integro e a portata di mano dell'utente per tutto il ciclo di vita dell'apparecchio.

1.3 Destinazione d'uso

- Utilizzare l'apparecchio solo al chiuso.
- L'apparecchio è stato realizzato in modo specifico per un impiego di tipo domestico. Può essere utilizzato unicamente per riscaldare acqua. Non utilizzare l'apparecchio per scopi diversi dalla sua destinazione d'uso.
- L'apparecchio non è concepito per funzionare con temporizzatori esterni o con sistemi di comando a distanza.
- L'uso di questo apparecchio non è consentito a persone (incluso i bambini) dalle ridotte capacità fisiche, sensoriali o mentali oppure con mancata esperienza e conoscenza, a meno che non siano supervisionate o istruite da persone adulte e responsabili per la loro sicurezza.
- I bambini non devono giocare con l'apparecchio. Tenere l'apparecchio fuori dalla portata dei bambini.



1.4 Avvertenze generali di sicurezza

Seguire tutte le avvertenze di sicurezza per un utilizzo sicuro dell'apparecchio.

- Prima di utilizzare l'apparecchio leggere attentamente questo manuale d'uso.
- Non immergere l'apparecchio, il cavo di alimentazione, la spina o la base in acqua o qualsiasi altro liquido.
- Non lavare l'apparecchio in lavastoviglie.
- Non utilizzare l'apparecchio se il cavo di alimentazione o la spina risultano danneggiati o se l'apparecchio è caduto a terra o si è danneggiato in qualche modo.
- Non posizionare il cavo di alimentazione su spigoli vivi e non lasciarlo sospeso.
- Proteggere il cavo di alimentazione dal calore e dall'olio.
- Non posizionare l'apparecchio sopra superfici calde o vicino a fornelli gas o elettrici accesi o all'interno di un forno caldo.
- Non posizionare l'apparecchio su superfici sensibili all'acqua. Gli spruzzi potrebbero danneggiarlo.
- Non staccare la spina dalla presa di corrente tirandone il cavo o con le mani bagnate.
- In caso di guasto fare riparare l'apparecchio esclusivamente da un tecnico qualificato o da un servizio di assistenza tecnica autorizzato.
- Non tentare mai di spegnere una fiamma o incendio con acqua: spegnere l'apparecchio, togliere la spina dalla presa di corrente e coprire la fiamma con un coperchio o con una coperta ignifuga.
- Non modificare questo apparecchio.
- Non tentare mai di riparare l'apparecchio da soli o senza l'intervento di un tecnico qualificato.
- Se il cavo di alimentazione elettrica è danneggiato, contattare subito il servizio di assistenza tecnica.



Avvertenze

Per questo apparecchio

- Il bollitore può raggiungere temperature elevate durante il funzionamento. Non toccare le superfici calde. Utilizzare la maniglia.
- La superficie della resistenza presenta calore residuo dopo l'uso. Prestare attenzione.
- Non utilizzare il bollitore se la maniglia si è allentata.
- Non mettere in funzione il bollitore su un piano inclinato.
- Non mettere in funzione il bollitore fino alla completa immersione della resistenza.
- Non allontanarsi mentre il bollitore è in funzione.
- Togliere la spina dalla presa di corrente quando il bollitore non è in funzione, prima di effettuare la pulizia e in caso di guasto. Lasciare raffreddare l'apparecchio prima di effettuare la pulizia.
- Utilizzare sempre il bollitore con il filtro anticalcare applicato.
- Non riempire eccessivamente il bollitore (max. 1,7 litri) per evitare spruzzi di acqua bollente.
- Utilizzare il bollitore esclusivamente per riscaldare acqua. Non utilizzare altri liquidi.
- Non aprire il coperchio del bollitore mentre è in funzione.
- Controllare che il coperchio sia ben chiuso prima di accendere il bollitore.
- Utilizzare il bollitore solamente con la base in dotazione.
- Non utilizzare il bollitore in combinazione con basi di altri produttori.
- Utilizzare esclusivamente parti di ricambio originali del produttore. L'uso di parti di ricambio non consigliato dal produttore potrebbe provocare incendi, scosse elettriche o lesioni alle persone.
- Non appoggiare la base su un piano inclinato.
- Non utilizzare detergenti alcalini per la pulizia al fine di prevenire deterioramenti dell'apparecchio, utilizzare un panno morbido e un detergente leggero.
- Non utilizzare oggetti metallici o spugne abrasive per pulire l'interno del bollitore. Utilizzare esclusivamente prodotti specifici.
- Svuotare sempre completamente il bollitore per non lasciare l'acqua residua all'interno che potrebbe causare la formazione di calcare.
- L'uso di questo apparecchio è consentito ai bambini a partire dagli 8 anni se supervisionati o istruiti riguardo l'uso in sicurezza dell'apparecchio e se ne comprendono i rischi connessi.
- La pulizia e la manutenzione possono essere eseguite da bambini a partire dagli 8 anni purché supervisionati.
- Tenere il bollitore e il cavo di alimentazione fuori dalla portata dei bambini di età inferiore agli 8 anni.
- Non permettere ai bambini di giocare con l'apparecchio.
- Questo apparecchio è destinato ad un impiego in ambiente domestico. Ogni altro uso è improprio. Inoltre, può essere utilizzato:
 - nella zona cucina per i dipendenti in negozi, negli uffici e in altri ambienti lavorativi;
 - in fattorie/agriturismi;
 - da clienti in alberghi, motel e ambienti residenziali;
 - nei bed and breakfast.



1.5 Responsabilità del costruttore

Il costruttore declina ogni responsabilità per danni subiti da persone e cose causati da:

- uso dell'apparecchio diverso da quello previsto;
- mancanza di lettura del manuale d'uso;
- manomissione anche di una singola parte dell'apparecchio;
- utilizzo di ricambi non originali;
- inosservanza delle avvertenze di sicurezza.

1.6 Targhetta di identificazione

La targhetta di identificazione riporta i dati tecnici, il numero di matricola e la marcatura. La targhetta di identificazione non deve mai essere rimossa.

1.7 Smaltimento



Questo apparecchio deve essere smaltito separatamente dagli altri rifiuti (Direttiva 2012/19/EU).

Questo apparecchio non contiene sostanze in quantità tali da essere ritenute pericolose per la salute e l'ambiente, in conformità alle attuali direttive europee.

- **Le vecchie apparecchiature elettriche non devono essere smaltite insieme ai rifiuti domestici!** Nel rispetto della legislazione vigente, gli apparecchi elettrici giunti a fine vita devono essere conferiti ai centri di raccolta differenziata dei rifiuti elettrici ed elettronici. In questo modo si possono riciclare materiali pregiati provenienti dai vecchi apparecchi e proteggere l'ambiente. Per maggiori informazioni contattare le autorità locali preposte o gli addetti dei centri di raccolta differenziata.

Si precisa che per l'imballaggio dell'apparecchio vengono utilizzati materiali non inquinanti e riciclabili.

- Conferire i materiali dell'imballaggio agli idonei centri di raccolta differenziata.



Imballi di plastica Pericolo di soffocamento

- Non lasciare incustodito l'imballaggio o parti di esso.
- Non permettere che i bambini giochino con i sacchetti di plastica dell'imballaggio.



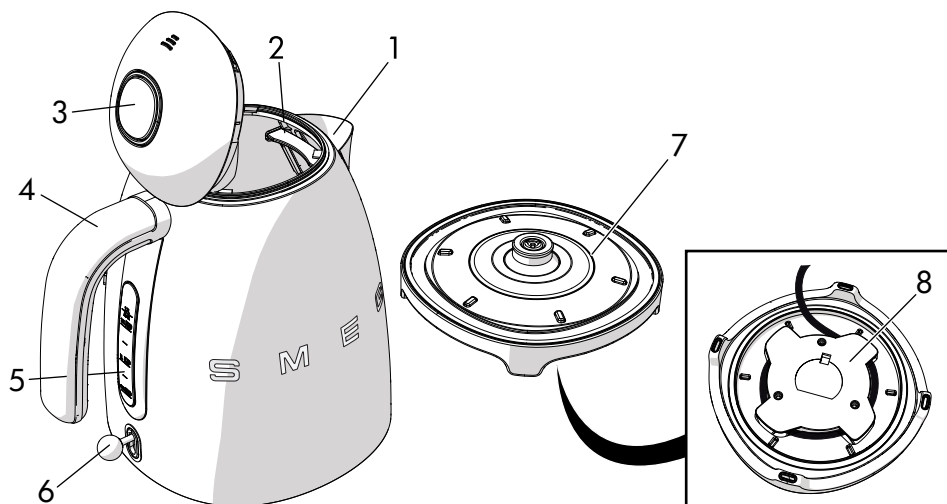
Tensione elettrica Pericolo di folgorazione

- Disattivare l'alimentazione elettrica generale.
- Staccare il cavo di alimentazione elettrica dall'impianto elettrico.
- Non versare liquidi sulla spina di corrente e sulla base di alimentazione.



2 Descrizione

2.1 Descrizione del prodotto

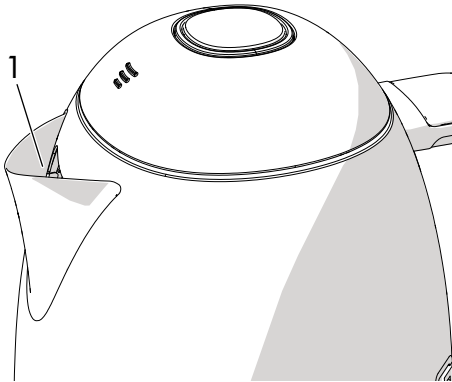


Modello KLF03 - Bollitore

- 1 Beccuccio antigoccia
- 2 Filtro anticalcare
- 3 Coperchio con apertura push-push
- 4 Maniglia
- 5 Indicatore di livello acqua
- 6 Leva di accensione/spegnimento con indicatore luminoso
- 7 Base con connessione a 360°
- 8 Vano avvolgicavo (sotto la base)

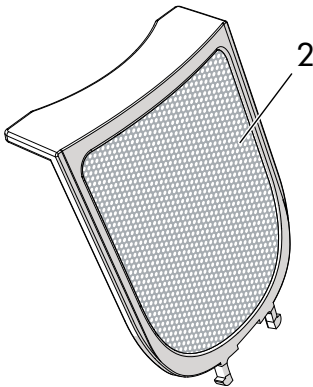
2.2 Descrizione delle parti

Beccuccio antigoccia (1)



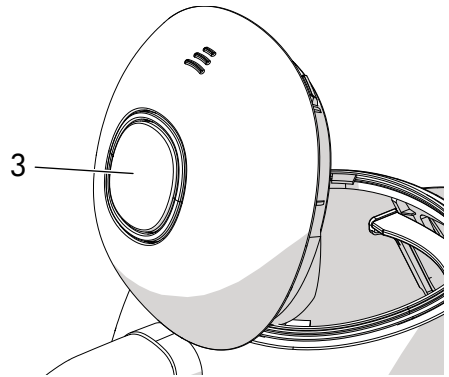
L'ampio beccuccio in acciaio inox permette un versamento agevole del contenuto.

Filtro anticalcare (2)



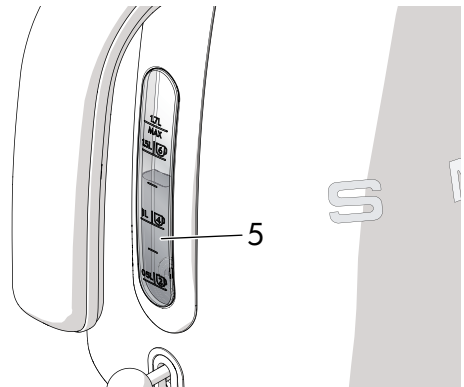
Il filtro in acciaio inox è posizionato dietro al beccuccio antigoccia. Trattiene il calcare presente nell'acqua.

Coperchio con apertura push-push (3)



Il coperchio dispone di un pulsante push-push (3) che ne permette l'apertura progressiva per evitare l'eventuale fuoriuscita repentina del vapore bollente.

Indicatore di livello acqua (5)

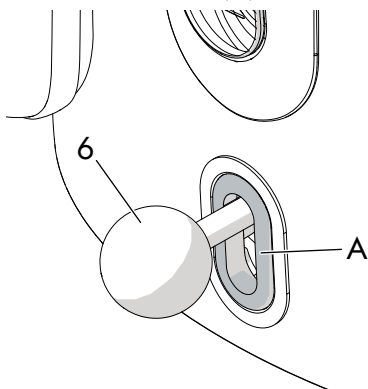


L'indicatore riporta i vari livelli di riempimento dell'acqua, da un minimo di 0,5 litri ad un massimo di 1,7 litri e l'indicazione del numero di tazze corrispondenti.



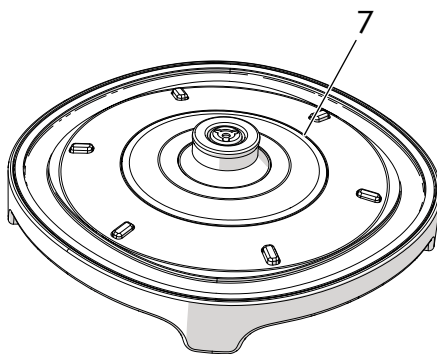
Descrizione

Leva di accensione/spegnimento con indicatore luminoso (6)



La leva di accensione/spegnimento attiva/interrompe il ciclo di bollitura. Quando il bollitore è in funzione il led **A** si accende diventando bianco.

Base con connessione a 360° (7)



La connessione a 360° permette di posizionare il bollitore sulla base in qualsiasi posizione.

i Per evitare danni all'apparecchio, il bollitore è provvisto di un **dispositivo di sicurezza** che interviene facendo scattare la leva nella posizione di spento in caso di attivazione accidentale senz'acqua.

In tal caso, lasciare raffreddare il bollitore prima di azionare il ciclo di bollitura.



3 Uso



Pericolo di folgorazione

- Inserire la spina in una presa di corrente conforme e dotata di messa a terra.
- Non manomettere la messa a terra.
- Non utilizzare un adattatore.
- Non utilizzare una prolunga.
- L'inosservanza di queste avvertenze può provocare la morte, un incendio o la folgorazione.
- Non versare liquidi sulla spina di corrente e sulla base di alimentazione.



Suggerimenti e consigli per l'utente

- Non utilizzare il bollitore per riscaldare liquidi diversi dall'acqua per non danneggiare l'apparecchio.
- Bollire solo la quantità d'acqua necessaria per non sprecare acqua, energia e tempo.
- Utilizzare sempre acqua fresca per migliorare la qualità delle bevande calde.

Per prolungare la durata dell'apparecchio:

- Svuotare l'acqua rimasta nel bollitore dopo ogni utilizzo.
- Rimuovere regolarmente il calcare dalla parte interna del bollitore.



Eventuali lievi aloni o macchie all'interno della caraffa sono normali e dovute a tests funzionali di verifica, a cui ogni pezzo viene regolarmente sottoposto prima dell'imballaggio.

3.1 Prima del primo utilizzo

1. Rimuovere tutti gli adesivi e le etichette e pulire la parte esterna del bollitore utilizzando un panno umido.
2. Rimuovere il filtro dietro al beccuccio e lavarlo sotto l'acqua.
3. Riposizionare il filtro nella posizione corretta.
4. Rimuovere il bollitore dalla base, premere il pulsante per aprire il coperchio e riempire fino al livello massimo.
5. Richiudere il coperchio, appoggiare il bollitore sulla sua base e spostare la leva verso il basso per accenderlo.
6. Attendere l'ebollizione dell'acqua e svuotare il bollitore. Ripetere questa operazione almeno tre volte.



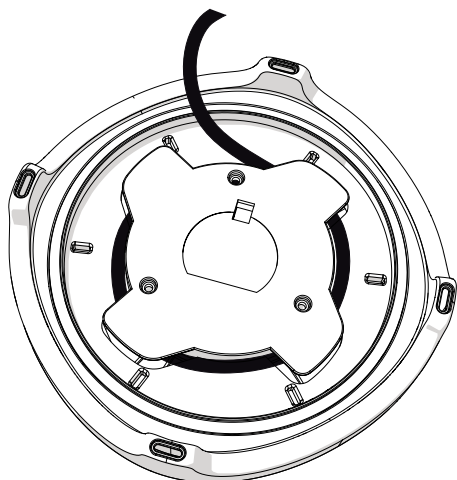
Superfici calde

- La superfici del bollitore sono soggette ad alte temperature.

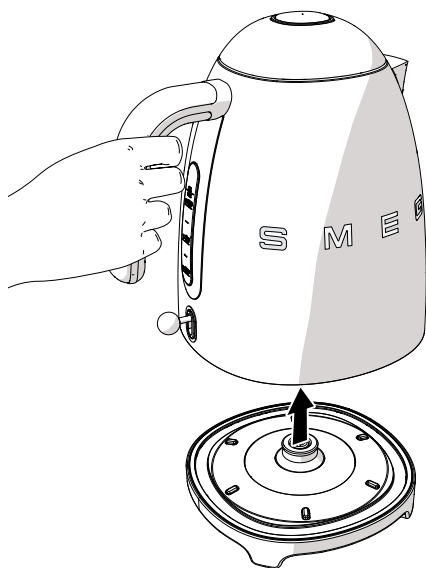


3.2 Funzionamento

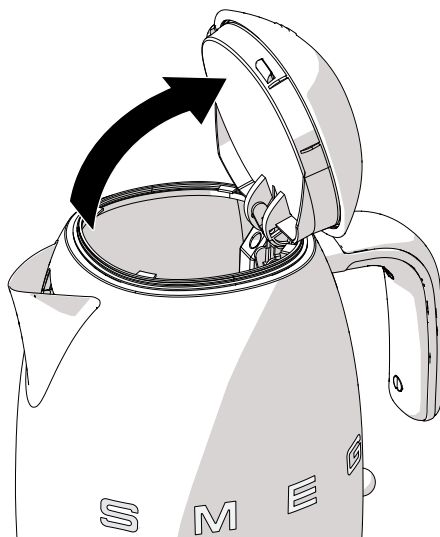
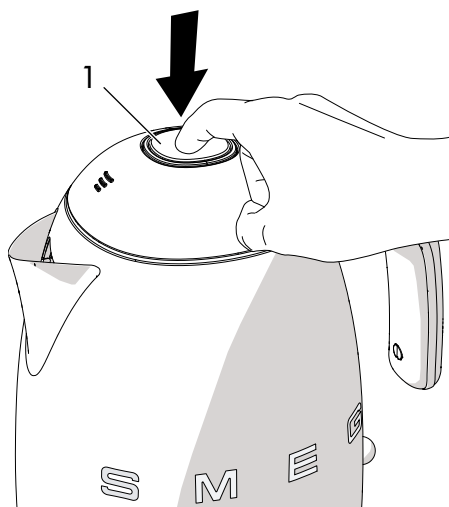
1. Se necessario, accorciare il cavo avvolgendolo sotto alla base.



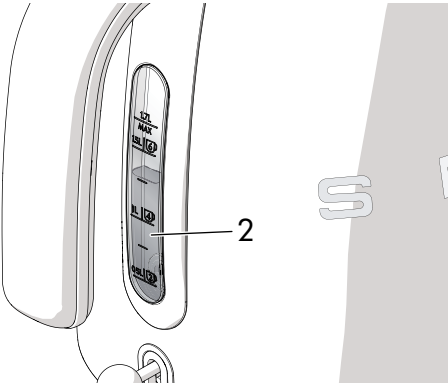
2. Rimuovere il bollitore dalla base afferrandolo per la maniglia.



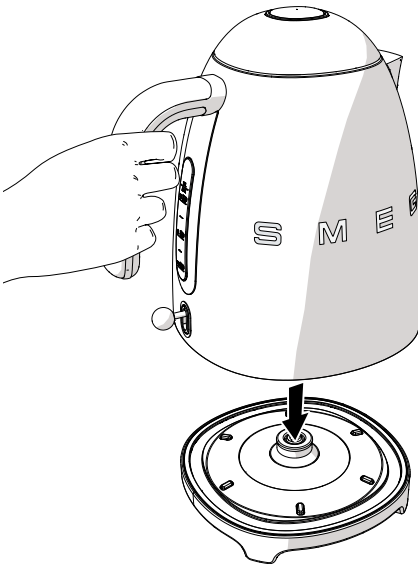
3. Premere il pulsante (1) per aprire il coperchio.



4. Riempire con acqua fino al livello desiderato facendo riferimento alle tacche sull'indicatore di livello (2).

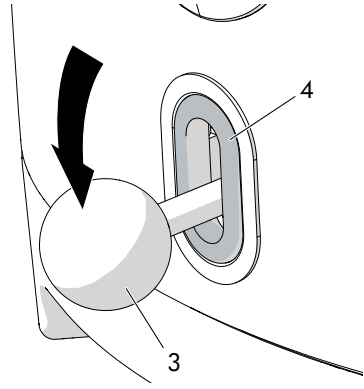


5. Richiudere il coperchio e appoggiare il bollitore sulla base.



6. Inserire la spina nella presa di corrente.

7. Spostare la leva (3) verso il basso per accendere il bollitore. Il led (4) si illumina diventando bianco.



8. A bollitura raggiunta la leva scatta alla posizione di spento e il led si spegne.
9. Afferrare il bollitore per la maniglia per versare il contenuto nelle tazze.



Pericolo di ustioni

- A bollitura raggiunta attendere qualche secondo e versare l'acqua lentamente per evitare fuoriuscite e schizzi.
- Non riempire il bollitore oltre il livello massimo (1,7 litri) per evitare ustioni nel versare il liquido.
- Non inclinare eccessivamente il bollitore a fine riscaldamento per evitare ustioni dovute agli schizzi d'acqua bollente.
- Non tenere il viso troppo vicino al coperchio per evitare ustioni dovute alla fuoriuscita del vapore bollente.



4 Pulizia e manutenzione

4.1 Avvertenze



Uso non corretto

Pericolo di folgorazione

- Rimuovere la spina dalla presa di corrente prima di effettuare la pulizia del bollitore.



Apparecchio caldo

Pericolo di ustioni

- Lasciare raffreddare l'apparecchio prima di effettuarne la pulizia.



Uso non corretto

Rischio di danni alle superfici

- Non utilizzare getti di vapore per pulire l'apparecchio.
- Non utilizzare prodotti per la pulizia contenenti cloro, ammoniaca o candeggina.
- Non utilizzare detergenti abrasivi o corrosivi (ad es. prodotti in polvere, smacchiatori e spugnette metalliche).
- Non utilizzare materiali ruvidi, abrasivi o raschietti metallici affilati.

4.2 Pulizia delle superfici

Per una buona conservazione delle superfici occorre pulirle regolarmente al termine di ogni utilizzo dopo averle lasciate raffreddare.

4.3 Pulizia ordinaria giornaliera

Utilizzare sempre prodotti che non contengono abrasivi o sostanze acide a base di cloro.

Versare il prodotto su un panno umido e passare sulla superficie, ripassare accuratamente e asciugare con uno straccio morbido o con un panno in microfibra.

Per la pulizia del filtro fare riferimento al paragrafo 4.4 Pulizia del filtro.



Suggerimenti e consigli per l'utente

Pulire le pareti esterne ed eseguire le operazioni di pulizia indicate nel paragrafo "3.1 Prima del primo utilizzo" dal punto 2 al punto 6 in caso di non utilizzo prolungato del bollitore.

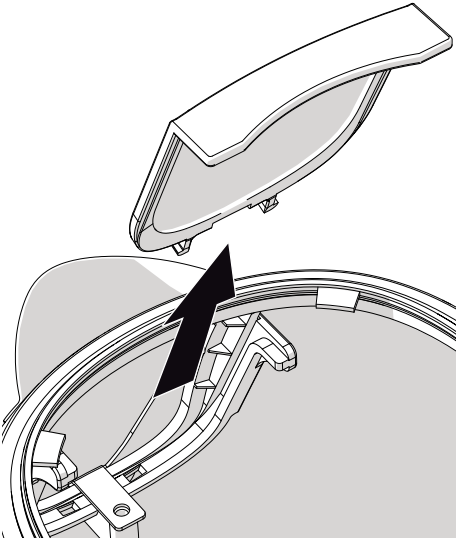
4.4 Pulizia del filtro



Importante

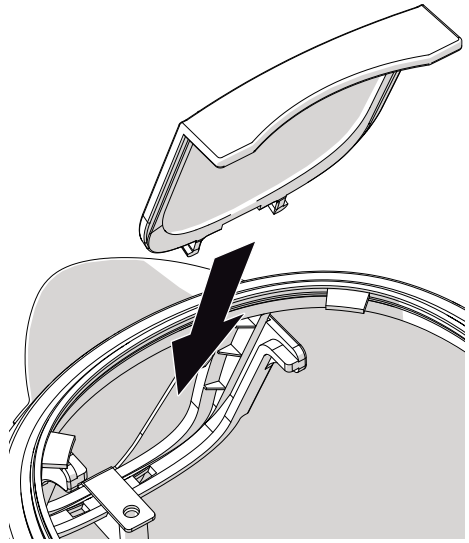
Lavare il filtro assicurandosi di avere le mani pulite e prive di residui di sapone, crema o altri prodotti che potrebbero inquinare l'acqua.

1. Aprire il coperchio e sfilare il filtro dalla sua sede.



2. Lavare il filtro sotto acqua corrente e utilizzare una spazzola morbida.

3. Introdurre nuovamente il filtro nella sua sede dietro al beccuccio del bollitore.





4.5 Decalcificazione

Rimuovere regolarmente il calcare depositato all'interno del bollitore prolunga la durata dell'apparecchio, garantisce alte prestazioni e favorisce il risparmio energetico.

Il bollitore può essere decalcificato con un prodotto anticalcare specifico.



Uso non corretto

Pericolo di danni all'apparecchio

- Non utilizzare prodotti anticalcare per la pulizia del bagno o della cucina o prodotti che contengono profumi.

Lasciare agire il prodotto, quindi risciacquare abbondantemente, fare bollire l'acqua e gettarla almeno un paio di volte per eliminare i residui di prodotto.

In alternativa si può utilizzare dell'aceto bianco.

Procedere come segue:

1. Riempire il bollitore con acqua (1 litro) e far bollire.
2. Versare l'aceto bianco (da 0,1 a 0,5 l a seconda della quantità di calcare).
3. Lasciare agire per una notte.
4. Svuotare il bollitore.
5. Riempire il bollitore con acqua e far bollire. Quindi svuotare il bollitore. Ripetere questa operazione almeno un paio di volte.



Suggerimenti e consigli per l'utente

- I depositi di calcare possono causare lo spegnimento del bollitore durante l'uso prima di raggiungere l'ebollizione. Inoltre, i tempi di ebollizione potrebbero prolungarsi.
- In caso di utilizzo quotidiano o nel caso in cui diminuisca l'efficienza nel versamento, decalcificare il bollitore e il filtro con una maggiore frequenza.
- In alcune regioni la durezza dell'acqua è maggiore e l'acqua potrebbe avere un aspetto torbido e lasciare residui sulle pareti del bollitore. In questo caso, pulire la parte interna del bollitore più frequentemente o utilizzare acqua depurata.

4.6 Cosa fare se....

Problema	Causa	Soluzione
Diminuzione efficienza nel versamento	Presenza di calcare nel filtro	Controllare la posizione e la pulizia del filtro
L'apparecchio si spegne prima di raggiungere l'ebollizione	Il fondo della caraffa presenta un deposito di calcare eccessivo	Decalcificare con maggiore frequenza
	È stata versata poca acqua	Aumentare la quantità di acqua fino a raggiungere almeno il livello minimo
L'apparecchio non si accende	Attivazione dispositivo di sicurezza dovuta ad un funzionamento del bollitore senz'acqua	Lasciare raffreddare il bollitore prima di attivare un nuovo ciclo di bollitura
	La spina non è correttamente inserita nella presa di corrente	Connettere la spina nella presa di corrente. Non utilizzare adattatori o prolunghie. Controllare che l'interruttore generale sia inserito
	Il cavo è difettoso	Fare sostituire il cavo presso un Centro Assistenza autorizzato
	Assenza di corrente elettrica	Controllare che l'interruttore generale sia inserito

Dear Customer,

*Thank you for choosing this special edition Smeg – Dolce&Gabbana, Sicily is my love
small domestic appliance.*

*Smeg and Dolce&Gabbana have combined their artistic talents to create a unique
collection, made in Italy by Smeg with unmistakeable Dolce&Gabbana design touches.*

We hope you enjoy using your new appliance!

Kindest regards,

SMEG S.p.A.

1	Instructions	38
1.1	Introduction	38
1.2	This user manual	38
1.3	Intended use	38
1.4	General safety instructions	39
1.5	Manufacturer liability	41
1.6	Identification plate	41
1.7	Disposal	41
2	Description	42
2.1	Product description	42
2.2	Description of parts	43
3	Use	45
3.1	Before first use	45
3.2	Operation	46
4	Cleaning and maintenance	48
4.1	Instructions	48
4.2	Cleaning the surfaces	48
4.3	Ordinary daily cleaning	48
4.4	Cleaning the filter	49
4.5	Descaling	50
4.6	What to do if...	51

We advise you to read this manual carefully, as it contains all the instructions for maintaining the appliance's aesthetic and functional qualities.

For further information on the product: www.smeg.com

1 Instructions

1.1 Introduction

Key information for the user:

Instructions



General information on this user manual, on safety and final disposal.

Description



Appliance description.

Use



Information on using your appliance

Cleaning and maintenance



Information for proper cleaning and maintenance of the appliance.



Safety instructions



Information



Advice

1.2 This user manual

This user manual is an integral part of the appliance and must therefore be kept in its entirety and within the user's reach for the whole working life of the appliance.

1.3 Intended use

- Use the appliance only indoors.
- The appliance has been designed specifically for domestic use. It must only be used to heat water. Do not use the appliance for anything other than its intended use.
- The appliance is not designed to operate with external timers or with remote-control systems.
- This appliance may not be used by people of reduced physical, sensory or mental capacity, or without sufficient experience and knowledge (including children), unless they are supervised or instructed by adults who are responsible for their safety.
- Children must never play with the appliance. Keep the appliance out of children's reach.



1.4 General safety instructions

Follow all safety instructions in order to use the appliance safely.

- Read this user manual carefully before using the appliance.
- Do not immerse the appliance, the power cord, the plug or the base in water or any other liquid.
- Never wash the appliance in the dishwasher.
- Do not use the appliance when the power cord or the plug is damaged or when the appliance has been dropped or is damaged in any manner.
- Do not position the power cord on sharp edges or leave it trailing.
- Protect the power cord from heat and oil.
- Do not position the appliance above hot surfaces, hob burners, or inside a hot oven.
- Do not position the appliance on surfaces sensitive to water. Drips could damage it.
- Do not unplug the appliance with wet hands, or by pulling on the power cord.
- In the event of a fault with the appliance, repairs must be performed only by qualified technicians or an authorised technical support service.
- Never try to put out a fire or flames with water: turn off the appliance and remove the plug from the socket, and smother the flames with a fire blanket or other appropriate cover.
- Do not modify this appliance.
- Do not try to repair the appliance yourself or without the assistance of a qualified technician.
- If the power supply cable is damaged, contact technical support immediately.



Instructions

For this appliance

- The kettle can get very hot during operation. Do not touch the hot surfaces. Use the handle.
- The heating element surface is subject to residual heat after use. Be careful.
- Do not use the kettle if the handle is loose.
- Do not operate the kettle on an inclined plane.
- Do not operate the kettle unless the element is fully immersed.
- Do not move while the kettle is switched on.
- Unplug the kettle when it is not being used, before cleaning and if you notice any fault. Let the appliance cool down before cleaning.
- Always use the kettle with the scale filter fitted.
- Do not overfill the kettle (max. 1.7 litres), otherwise boiling water may spray out.
- Only use the kettle to boil water. Never fill the kettle with other liquids.
- Do not open the kettle's lid while it is on.
- Check that the lid is correctly closed before turning on the kettle.
- Only use the kettle with the base provided.
- Do not use the kettle on bases from other manufacturers.
- Only use original spare parts. The use of spare parts not approved by the manufacturer could lead to fires, electric shocks or personal injury.
- Only place the base on level surfaces.
- Do not use metal implements or scouring pads to clean the inside of the kettle. Only use products specifically designed for the purpose.
- To prevent damage to the appliance do not use alkaline cleaning agents when cleaning, use a soft cloth and a mild detergent.
- Empty the kettle before you use it each time: if residual water is left inside, this could lead to scale building up.
- This appliance can be used by children aged from 8 years and above if they have been given supervision or instruction concerning use of the appliance in a safe way and if they understand the hazards involved.
- Cleaning and maintenance must never be performed by children unless they are older than 8 and supervised.
- Keep the kettle and its power cord out of the reach of children aged less than 8 years.
- Do not allow children to play with the appliance.
- This appliance is intended for use in a home environment. Every other use is considered improper. It also can be used in:
 - Staff kitchen areas in shops, offices and other working environments
 - Farm houses
 - By guests in hotels, motels and other residential type environments
 - Bed and breakfast type environments.



1.5 Manufacturer liability

The manufacturer shall not be liable for damage to persons or property caused by:

- Use of the appliance other than as envisaged
- Not having read the user manual
- Tampering with any part of the appliance
- Use of non-original spare parts
- Failure to observe the safety instructions

1.6 Identification plate

The identification plate bears the technical data, serial number and brand name of the appliance. Do not remove the identification plate for any reason.

1.7 Disposal



This appliance must be disposed of separately from other waste (Directive 2012/19/EU). The appliance does not contain substances in quantities sufficient to be considered hazardous to health and the environment, in accordance with current European directives.

- **Old appliances do not belong in household waste!** To comply with current legislation, old appliances, on reaching the end of their useful lives, should be taken to a disposal facility where they can be sorted. In this way, any valuable material contained in the old appliances can be recycled, helping to protect the environment. The relevant local authorities or their waste disposal operators can provide further information.

Our appliances are packed in non-polluting and recyclable materials.

- Take these packing materials to the appropriate recycling centre.



Plastic packaging Danger of suffocation

- Do not leave the packaging or any part of it unattended.
- Do not let children play with the plastic bags.



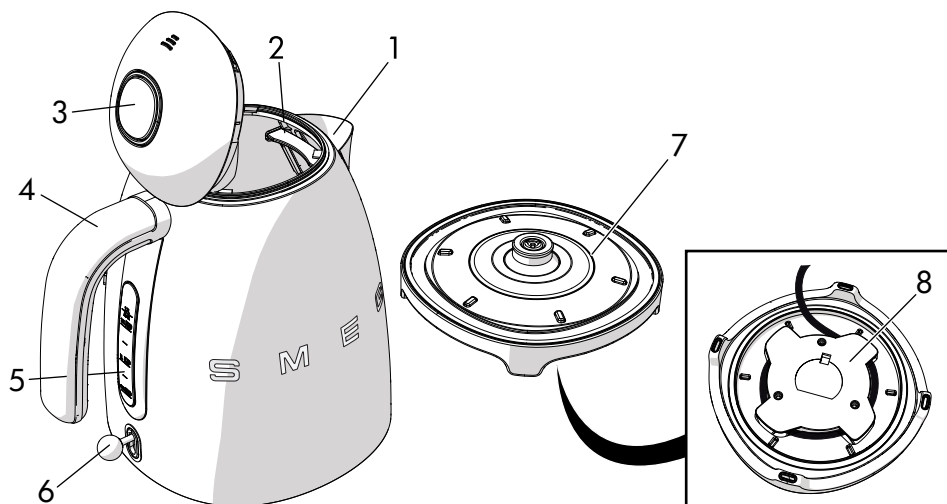
Electrical voltage Danger of electrocution

- Disconnect the main power supply.
- Disconnect the power cable from the electrical system.
- Avoid spillage on the connector and power base.



2 Description

2.1 Product description



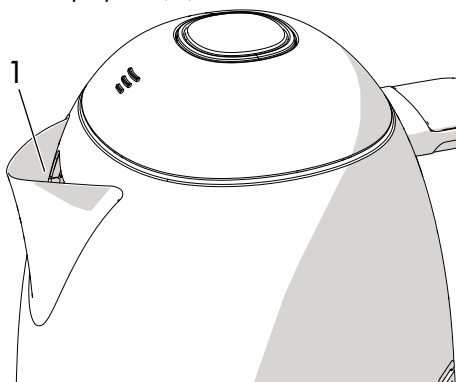
Model KLF03 - Kettle

- 1 Anti-drip spout
- 2 Scale filter
- 3 Lid with push-push opening
- 4 Handle
- 5 Water level indicator
- 6 ON/OFF lever with indicator light
- 7 Cordless base with 360° operation
- 8 Cable compartment (under base)



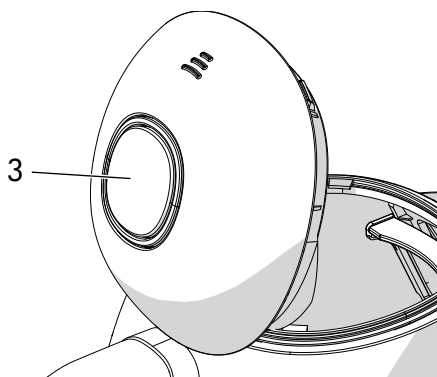
2.2 Description of parts

Anti-drip spout (1)



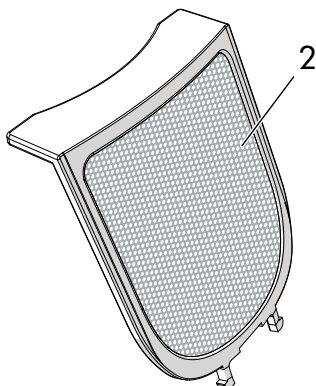
The large stainless-steel spout allows water to be poured easily and without spillage.

Lid with push-push opening (3)



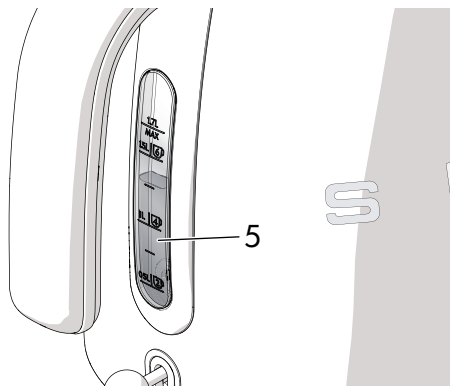
The lid has a push-push button (3) which allows it to open progressively to prevent the sudden release of steam.

Scale filter (2)



The stainless-steel filter is located behind the spout. It retains any scale present in the water.

Water level indicator (5)



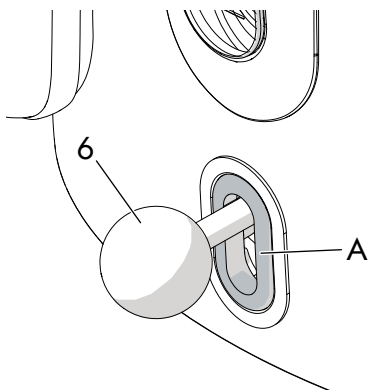
This indicator shows the level of water in the kettle, from the minimum fill level of 0.5 litres to the maximum of 1.7 litres, also showing the corresponding quantity in cups.



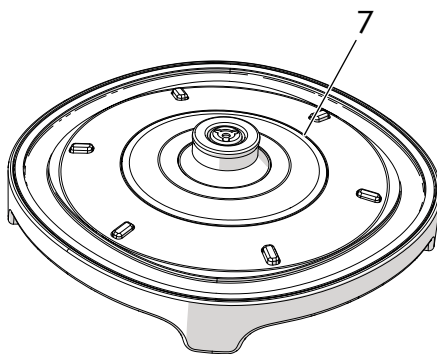
Description

ON/OFF lever with indicator light (6)

Cordless base with 360° operation (7)



The ON/OFF lever starts or stops the boiling process. When the kettle is on, the LED **A** turns on and becomes white.



The base's 360° operation allows the kettle to be used in any position.

i To avoid damaging the appliance, the kettle is equipped with a **safety device** which turns the lever to the OFF position automatically if the kettle is accidentally switched on without water.

If this occurs, let the kettle cool down before starting the boiling cycle again.



3 Use



Danger of electrocution

- Plug into a earthed 3-prong outlet.
- Do not remove the earth prong.
- Do not use an adapter.
- Do not use an extension cord.
- Failure to follow these instructions could result in death, fire, or electrical shock.
- Avoid spillage on the power cord.

3.1 Before first use

1. Remove all stickers and labels from the kettle and clean the outside with a damp cloth.
2. Remove the scale filter behind the spout and wash it under running water.
3. Replace the filter in the correct position.
4. Remove the kettle from its base, press the button to open the lid and fill it to the maximum level.
5. Close the lid again, place the kettle down on its base and push the ON/OFF lever down to turn it on.
6. Wait for the water to boil, then empty the kettle, disposing of the boiling water safely. Repeat this operation at least three times.



Hot surfaces

- Surfaces are liable to get hot.



Tips and suggestions for the user

- Do not use the kettle to heat anything other than water – this would risk causing severe damage to the appliance.
- Only boil the quantity of water required so as not to waste water, electricity and your time.
- Always boil cold water to improve the quality of your hot drinks.

To increase the appliance's lifetime:

- Empty any remaining water from the kettle after each use.
- Regularly remove any scale from inside the kettle.

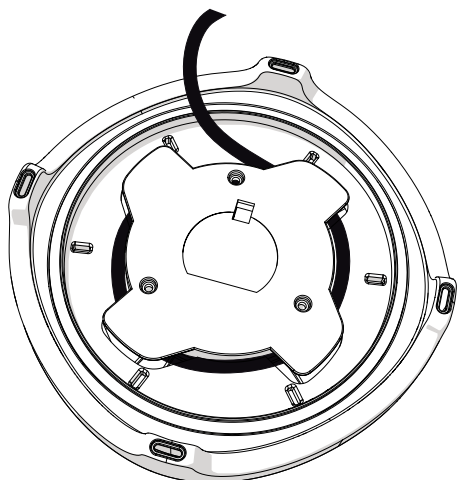


Any slight marks or rings inside the kettle are normal and due to functional inspections which are performed on each unit before packaging.

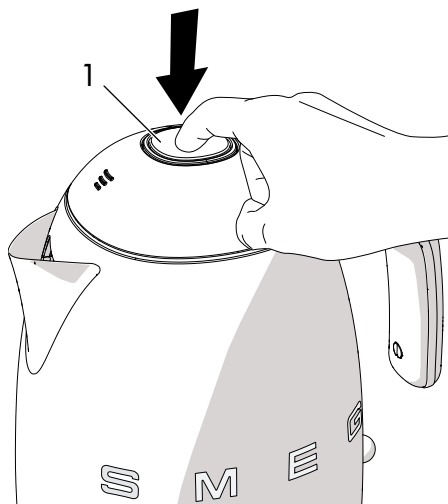


3.2 Operation

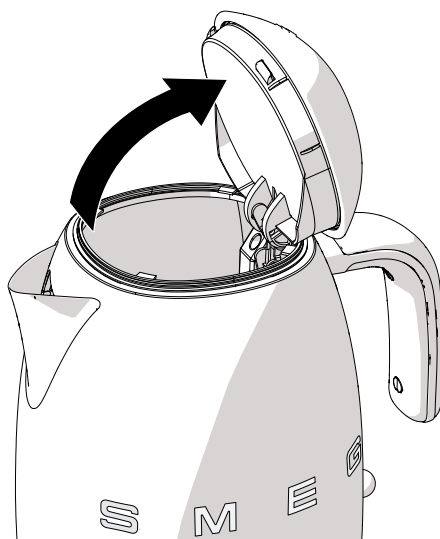
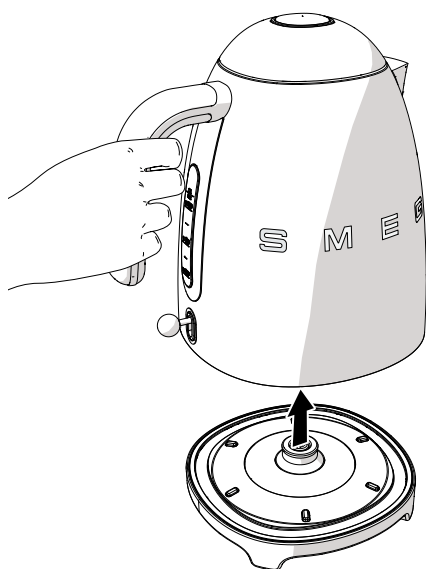
1. If necessary, shorten the length of the power cable by winding it under the base.



3. Press the button (1) to open the lid.

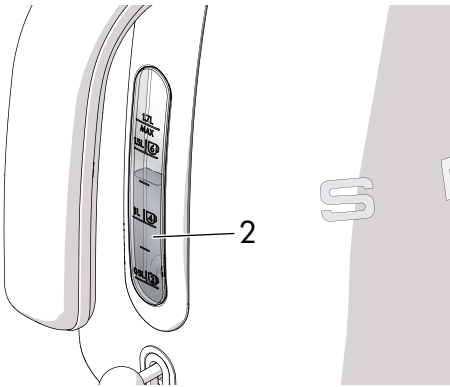


2. Hold the kettle by its handle when removing it from the base.

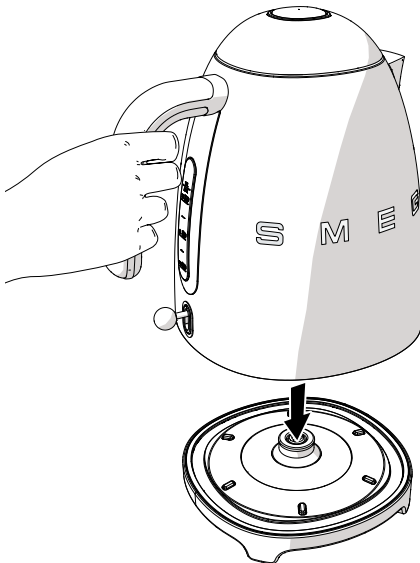




4. Fill the kettle with the required quantity of water, referring to the marks on the level indicator (2).

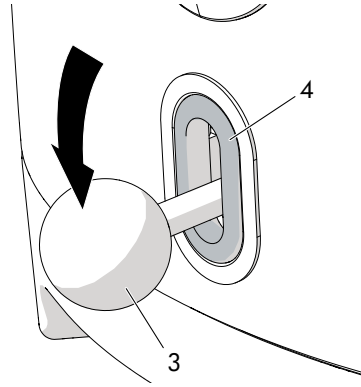


5. Close the lid again and place the kettle back on its base.



6. Insert the plug into the power socket.

7. Push the lever (3) downwards to turn the kettle on. The LED (4) will turn on and become white.



8. When the water boils, the lever will automatically click into the up (OFF) position and the LED will turn off.
9. Pick up the kettle by the handle and pour the boiling water into the desired recipient (cups, teapot etc.).



Danger of burns

- Wait a few seconds from when the kettle boils, then pour the water out slowly to prevent it spraying or coming out too fast.
- Do not fill the kettle beyond the maximum level (1.7 litres) – risk of burns when pouring.
- Do not tilt the hot kettle excessively – the boiling water could spray out, with a risk of burns.
- Keep your face a safe distance from the lid to avoid the risk of burns from escaping steam.



4 Cleaning and maintenance

4.1 Instructions



Improper use

Danger of electrocution

- Unplug the kettle before cleaning it.



Hot appliance

Danger of burns

- Let the appliance cool down before cleaning.



Improper use

Risk of damage to surfaces

- Do not use steam jets to clean the appliance.
- Do not use cleaning products containing chlorine, ammonia or bleach.
- Do not use abrasive or corrosive detergents (e.g. powder products, stain removers and metallic scourers).
- Do not use rough or abrasive materials or sharp metal scrapers.

4.2 Cleaning the surfaces

To keep the kettle's outside surfaces in good condition, they should be cleaned regularly after use. Let them cool first.

4.3 Ordinary daily cleaning

Always use only products which do not contain abrasive substances or chlorine-based acids.

Pour the product onto a damp cloth and wipe the surface, wipe clean thoroughly and then dry with a soft cloth or a microfibre cloth.

For cleaning the filter, see the section 4.4 Cleaning the filter.



Tips and suggestions for the user

Clean the outside surfaces of the kettle and perform the cleaning operations indicated in section "3.1 Before first use" from point 2 to point 6 if the kettle is left unused for a long time.

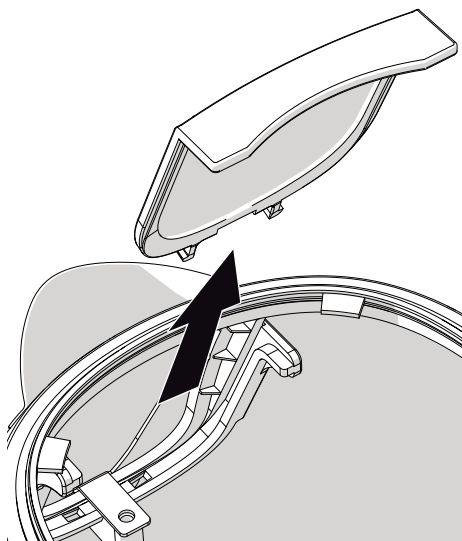
4.4 Cleaning the filter



Important

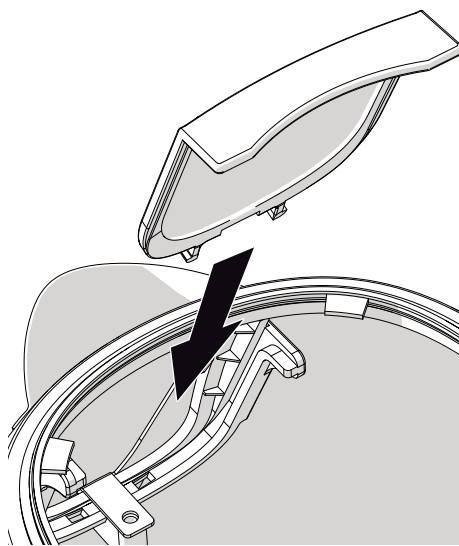
When washing the filter, make sure your hands are clean and free of any residue from soap, creams or other products which could contaminate the water.

1. Open the lid and extract the filter.



2. Wash the filter under running water with the aid of a soft brush.

3. Put the filter back in position behind the spout.





4.5 Descaling

Regularly removing any deposits of scale inside the kettle will prolong your kettle's life, ensuring maximum performance and energy savings.

The kettle can be descaled using specific descaling products.



Improper use

Risk of damage to the appliance

- Do not use descaling products for cleaning bathrooms or kitchens, or scented products.

Leave the descaling product to act, then rinse thoroughly. Then boil at least two full kettles of water, disposing of the boiling water safely, to remove any residue of the product before use.

Alternatively, you can use common household vinegar.

Proceed as follows:

1. Fill the kettle with water (1 litre) and boil it.
2. Add the white vinegar (from 0.1 to 0.5 l depending on the amount of scale).
3. Leave it to act overnight.
4. Empty the kettle.
5. Fill the kettle with water and boil it. Empty the kettle, disposing of the water safely. Repeat this operation at least twice.



Tips and suggestions for the user

- Scale build-up can cause the kettle to switch off during use before the water has boiled. Boiling times could also be increased.
- If the kettle is used daily, or if it becomes more difficult to pour out the water, descale the kettle and filter more frequently.
- In some regions the water is harder, and in these areas it could have a cloudy appearance and leave residue on the walls of the kettle. In this case, clean the inside of the kettle more frequently or use purified/softened water.



4.6 What to do if...

Problem	Cause	Solution
Pouring water becomes more difficult	Scale build-up on filter	Check that the filter is clean and correctly positioned
The kettle turns off before boiling	The base of the kettle has excessive scale build-up	Descale more frequently
	Too little water has been added to the kettle	Increase the quantity of water until you reach at least the minimum level
The appliance does not turn on	The safety device has tripped out due to the kettle being operated without water	Let the kettle cool down before attempting to boil water again
	The plug is not properly inserted in the power socket	Insert the plug into the power socket. Do not use adaptors or extensions. Check that the house's main breaker is on
	The cable is defective	Have the cable replaced at an Authorised Service Centre
	Lack of power	Check that the house's main breaker is on

Cher client,

Nous vous remercions d'avoir acheté un petit appareil électroménager de l'édition spéciale Smeg – Dolce&Gabbana, Sicily is my love.

Smeg et Dolce&Gabbana associent leurs veines artistiques donnant vie à une collection unique, originale Made in Italy, réalisée par Smeg avec une créativité unique signée Dolce&Gabbana.

*Nous espérons que vous pourrez apprécier pleinement votre appareil électroménager, nous vous présentons nos salutations les plus cordiales,
SMEG S.p.A.*

1 Avertissements	54
1.1 Introduction	54
1.2 Ce manuel d'utilisation	54
1.3 Usage prévu	54
1.4 Avertissements généraux de sécurité	55
1.5 Responsabilité du fabricant	57
1.6 Plaque d'identification	57
1.7 Élimination	57
2 Description	58
2.1 Description du produit	58
2.2 Description des pièces	59
3 Utilisation	61
3.1 Avant la première utilisation	61
3.2 Fonctionnement	62
4 Nettoyage et entretien	64
4.1 Avertissements	64
4.2 Nettoyage des surfaces	64
4.3 Nettoyage ordinaire quotidien	64
4.4 Nettoyage du filtre	65
4.5 Décalcification	66
4.6 Que faire si...	67

Nous conseillons de lire attentivement ce manuel qui contient toutes les indications nécessaires pour préserver les caractéristiques esthétiques et fonctionnelles de l'appareil acheté.

Pour toute information complémentaire concernant le produit : www.smeg.com



Avertissements

1 Avertissements

1.1 Introduction

Informations importantes pour l'utilisateur :

Avertissements



Informations générales sur ce manuel d'utilisation, la sécurité et l'élimination finale.

Description



Description de l'appareil.

Utilisation



Informations relatives à l'utilisation de l'appareil.

Nettoyage et entretien



Informations pour un nettoyage et un entretien corrects de l'appareil.



Avertissement de sécurité



Information



Suggestion

1.2 Ce manuel d'utilisation

Ce manuel d'utilisation fait partie intégrante de l'appareil. Conservez-le en parfait état et à portée de main de l'utilisateur pendant tout le cycle de vie de l'appareil.

1.3 Usage prévu

- Utilisez l'appareil exclusivement à l'intérieur.
- L'appareil a été réalisé de façon spécifique pour un usage de type domestique. On ne peut l'utiliser que pour chauffer de l'eau. N'utilisez pas l'appareil pour des usages non prévus.
- Cet appareil n'est pas conçu pour fonctionner avec des temporisateurs externes ou des systèmes de commande à distance.
- L'utilisation de cet appareil est interdite à toute personne (y compris les enfants) aux capacités physiques, sensorielles ou mentales réduites, ou dépourvues d'expérience dans l'utilisation d'appareillages électriques, à moins qu'elles ne soient surveillées ou instruites par des personnes adultes et responsables pour leur sécurité.
- Les enfants ne doivent pas jouer avec l'appareil. Conservez l'appareil hors de la portée des enfants.



1.4 Avertissements généraux de sécurité

Suivez tous les avertissements de sécurité pour une utilisation sûre de l'appareil.

- Lisez attentivement ce manuel d'utilisation avant d'utiliser l'appareil.
- N'immergez pas l'appareil, le câble d'alimentation ou la fiche dans l'eau ou un autre liquide.
- Ne le lavez pas au lave-vaisselle.
- N'utilisez pas l'appareil si le câble d'alimentation ou la fiche sont endommagés ou si l'appareil est tombé au sol ou s'il présente un dommage quelconque.
- Ne placez pas le câble d'alimentation sur les arêtes vives et ne le laissez pas en suspension.
- Protégez le câble d'alimentation contre la chaleur et l'huile.
- Ne positionnez pas l'appareil au-dessus de surfaces chaudes ou à proximité des fourneaux à gaz ou électriques allumés ou à l'intérieur d'un four chaud.
- Ne positionnez pas l'appareil sur des surfaces sensibles à l'eau. Les éclaboussures risquent de l'endommager.
- Ne débranchez pas la fiche de la prise de courant en tirant le câble ou si l'on a les mains mouillées.
- En cas de panne, faites réparer l'appareil exclusivement par un technicien qualifié ou par un service d'assistance technique autorisé.
- N'essayez jamais d'éteindre une flamme ou un incendie avec de l'eau : mettez l'appareil hors tension, retirez la fiche de la prise de courant et couvrez la flamme avec un couvercle ou une couverture ignifuge.
- Ne modifiez pas cet appareil.
- N'essayez jamais de réparer l'appareil sans l'intervention d'un technicien qualifié.
- Si le câble d'alimentation électrique est abîmé, contactez immédiatement le service d'assistance technique.



Avertissements

Pour cet appareil

- La bouilloire peut atteindre des températures élevées durant le fonctionnement. Ne touchez pas les surfaces chaudes. Utilisez la poignée.
- La surface de la résistance présente une chaleur résiduelle après l'utilisation. Faire attention.
- N'utilisez pas la bouilloire si la poignée est desserrée.
- Ne pas mettre la bouilloire en fonction sur un plan incliné.
- Ne pas mettre la bouilloire en fonction tant que la résistance n'est pas complètement immergée.
- Ne pas s'éloigner lorsque la bouilloire est en fonction.
- Retirez la fiche de la prise quand la bouilloire n'est pas en fonction, avant d'effectuer le nettoyage et en cas de panne. Laissez refroidir l'appareil avant de procéder au nettoyage.
- Utilisez toujours la bouilloire avec le filtre anticalcaire.
- Ne remplissez pas excessivement la bouilloire (max. 1,7 litres) pour éviter les éclaboussures d'eau bouillante.
- Utilisez la bouilloire exclusivement pour chauffer de l'eau. N'utilisez pas d'autres liquides.
- N'ouvrez pas le couvercle de la bouilloire lorsque celle-ci est en fonction.
- Contrôlez que le couvercle est bien fermé avant de mettre la bouilloire sous tension.
- Utilisez la bouilloire exclusivement avec la base fournie.
- N'utilisez pas la bouilloire en combinaison avec des bases d'autres producteurs.
- Utilisez exclusivement des pièces de rechange originales du producteur. L'utilisation de pièces de rechange non conseillées par le producteur pourraient provoquer des incendies, des électrocutions ou des blessures corporelles.
- Ne posez pas la base sur une surface inclinée.
- N'utilisez pas d'objets métalliques ni d'éponges abrasives pour nettoyer l'intérieur de la bouilloire. Utilisez exclusivement des produits spécifiques.
- Ne pas utiliser de détergents alcalins pour le nettoyage afin de prévenir les détériorations de l'appareil ; utiliser un chiffon doux et un détergent léger.
- Videz toujours complètement la bouilloire pour ne pas laisser l'eau résiduelle à l'intérieur qui risque de former du calcaire.
- Les enfants à partir de huit ans peuvent utiliser cet appareil sous surveillance ou s'ils ont été instruits en ce qui concerne l'utilisation sécurisée de l'appareil et en l'absence de tout risque lié.
- Le nettoyage et l'entretien peuvent être réalisés par des enfants à partir de huit ans sous surveillance.
- Conserver la bouilloire et le cordon d'alimentation hors de la portée des enfants de moins de huit ans.
- Ne permettez pas aux enfants de jouer avec l'appareil.
- Cet appareil est destiné à l'utilisation dans le milieu domestique. Toute autre utilisation est impropre. Elle peut également être utilisée :
 - dans la zone de la cuisine pour les employés de magasins, dans les bureaux et dans des milieux professionnels ;
 - dans les fermes/agritourismes ;
 - chez les clients des hôtels, des motels et des résidences ;
 - dans les bed and breakfast.



1.5 Responsabilité du fabricant

Le fabricant décline toute responsabilité en cas de dommages subis par les personnes et les biens, causés par :

- l'utilisation de l'appareil différente de celle prévue ;
- la lecture omise du manuel d'utilisation ;
- l'altération même d'une seule pièce de l'appareil ;
- l'utilisation de pièces détachées non originales ;
- la non observation des avertissements de sécurité.

1.6 Plaque d'identification

La plaque d'identification contient les données techniques, le numéro de série et le marquage. N'enlevez jamais la plaque d'identification.

1.7 Élimination



Cet appareil doit être éliminé séparément des autres déchets (directive 2012/19/CE). Cet appareil ne contient pas de substances dont la quantité est jugée dangereuse pour la santé et l'environnement, conformément aux directives européennes en vigueur.

- **Les anciens appareils électriques ne doivent pas être éliminés avec les déchets domestiques !** Dans le respect de la législation en vigueur, les appareils électriques arrivés au terme de leur vie utile doivent être confiés aux centres de collecte sélective des déchets électriques et électroniques. On peut ainsi recycler des matériaux précieux provenant d'anciens appareils et protéger l'environnement. Pour de plus amples informations, contacter les autorités locales ou les préposés des centres de collecte sélective.

On précise que pour l'emballage de nos produits, nous utilisons des matériaux non polluants et recyclables.

- Confiez les matériaux de l'emballage aux centres de collecte sélective.



Emballage en plastique Danger d'asphyxie

- Ne laissez jamais sans surveillance l'emballage ni ses parties.
- Évitez que les enfants jouent avec les sachets en plastique de l'emballage.



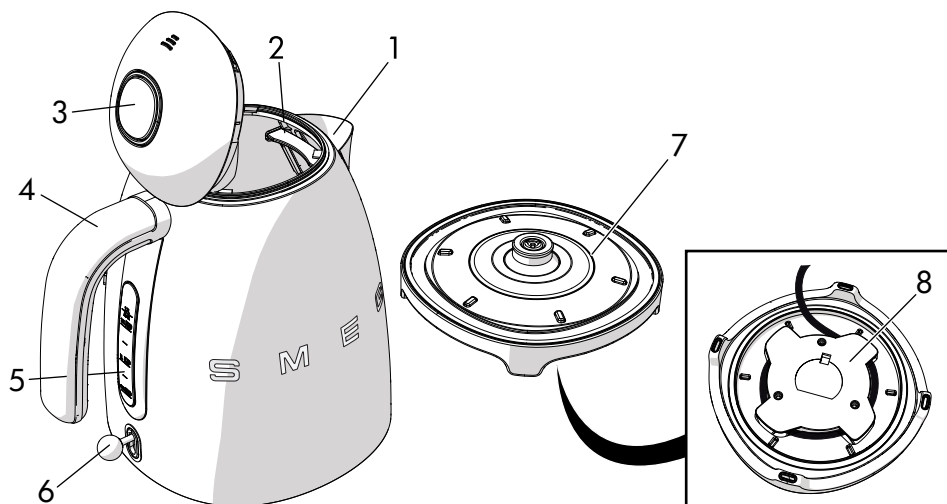
Tension électrique Danger d'électrocution

- Mettez l'appareil hors tension.
- Débranchez le câble d'alimentation électrique de l'installation électrique.
- Éviter les déversements sur le connecteur et sur la base d'alimentation.



2 Description

2.1 Description du produit

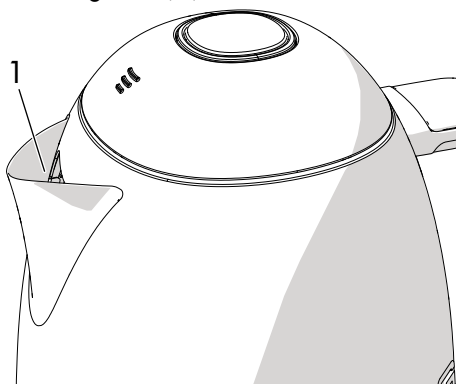


Modèle KLF03 - Bouilloire

- 1 Bec anti-goutte
- 2 Filtre anticalcaire
- 3 Couvercle avec ouverture push-push
- 4 Poignée
- 5 Indicateur du niveau de l'eau
- 6 Levier d'allumage/extinction avec indicateur lumineux
- 7 Base avec connexion à 360°
- 8 Compartiment enrouleur (sous la base)

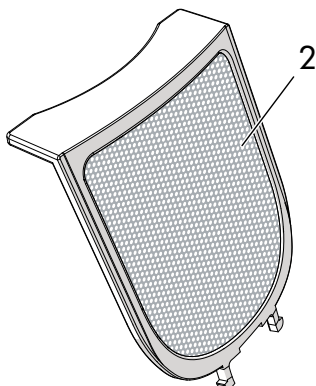
2.2 Description des pièces

Bec anti-goutte (1)



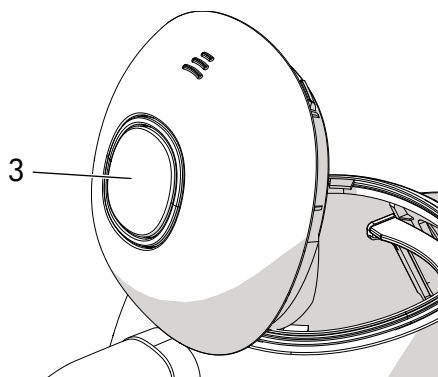
Le grand bec en acier inox permet de verser aisément le contenu.

Filtre anticalcaire (2)



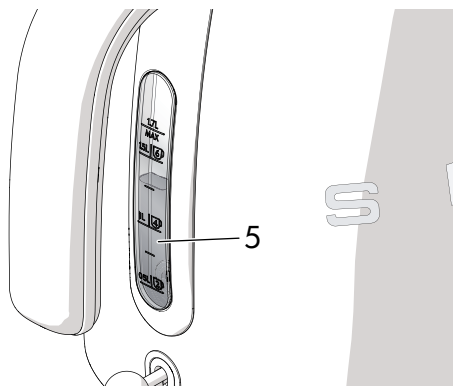
Le filtre en acier inox est situé derrière le bec anti-goutte. Il retient le calcaire présent dans l'eau.

Couvercle avec ouverture push-push (3)



Le couvercle est muni d'un bouton push-push (3) qui en permet l'ouverture progressive pour éviter l'échappement inattendu de vapeur bouillante.

Indicateur du niveau de l'eau (5)

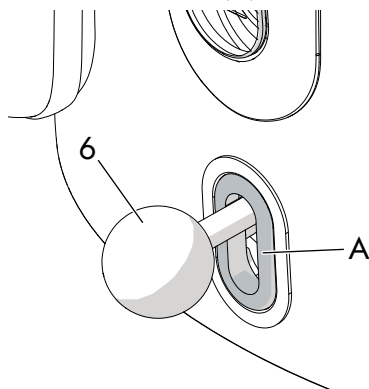


L'indicateur indique les différents niveaux de remplissage de l'eau, d'un minimum de 0,5 litre à un maximum de 1,7 litre ainsi que le nombre de tasses correspondant.



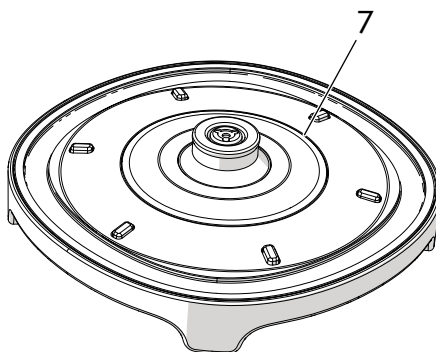
Description

Levier d'allumage/extinction avec indicateur lumineux (6)



Le levier d'allumage/extinction active/interrompt le cycle d'ébullition. Quand la bouilloire est en fonction, la DEL **A** s'allume en devenant blanche.

Base avec connexion à 360° (7)



La connexion à 360° permet de positionner la bouilloire sur la base dans toute position.

- i** Pour éviter d'endommager l'appareil, la bouilloire est munie d'un **dispositif de sécurité** qui intervient en actionnant le levier dans la position éteinte en cas d'activation accidentelle sans eau. Le cas échéant, laissez refroidir la bouilloire avant d'actionner le cycle d'ébullition.



3 Utilisation



Danger d'électrocution

- Insérez la fiche dans une prise de courant avec mise à la terre.
- Ne retirez pas la mise à la terre.
- N'utilisez pas un adaptateur.
- N'utilisez pas une rallonge.
- Le non respect de ces instructions peut entraîner la mort, un incendie ou un choc électrique.
- Éviter les déversements sur le connecteur et sur la base d'alimentation.



Suggestions et conseils pour l'utilisateur

- N'utilisez pas la bouilloire pour chauffer des liquides différents de l'eau pour ne pas endommager l'appareil.
- Ne faites bouillir que la quantité nécessaire d'eau pour ne pas gaspiller l'eau, l'énergie et le temps.
- Utilisez toujours de l'eau fraîche pour améliorer la qualité des boissons chaudes.

Pour prolonger la durée de vie de l'appareil :

- Videz l'eau restante après chaque utilisation.
- Éliminez régulièrement le calcaire de l'intérieur de la bouilloire.

3.1 Avant la première utilisation

1. Enlevez tous les autocollants et les étiquettes et nettoyez l'extérieur de la bouilloire avec un chiffon humide.
2. Enlevez le filtre à l'arrière du bec et lavez-le sous l'eau.
3. Remplacez le filtre dans la bonne position.
4. Enlevez la bouilloire de la base, appuyez sur le bouton pour ouvrir le couvercle et remplissez jusqu'au niveau maximum.
5. Refermez le couvercle, posez la bouilloire sur sa base et déplacez le levier vers le bas pour l'allumer.
6. Attendez l'ébullition de l'eau et videz la bouilloire. Répétez cette opération au moins trois fois.



Les éventuelles auréoles ou taches à l'intérieur de la carafe sont un phénomène normal dû à des tests fonctionnels de vérification auxquels est régulièrement soumise chaque pièce avant l'emballage.



Surfaces chaudes

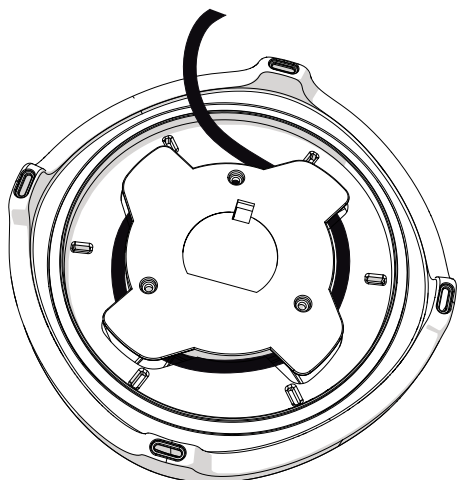
- Surfaces pouvant devenir chaudes.



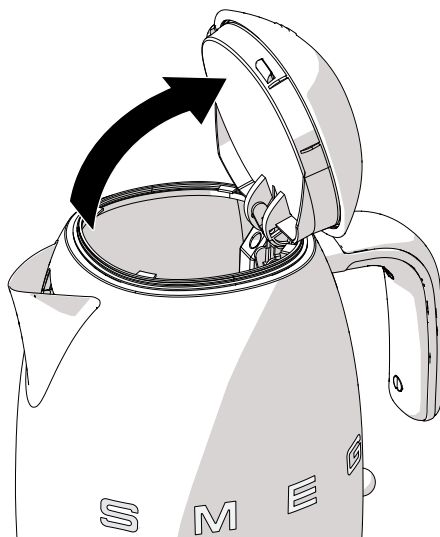
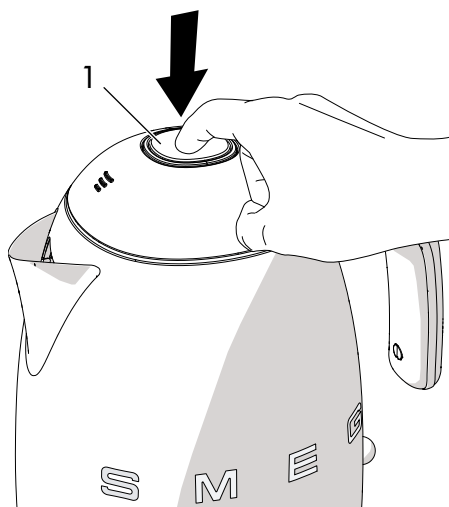
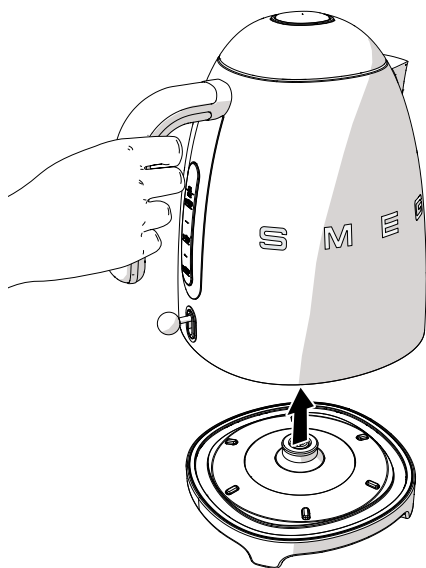
3.2 Fonctionnement

1. Au besoin, raccourcissez le câble en l'enroulant sous la base.

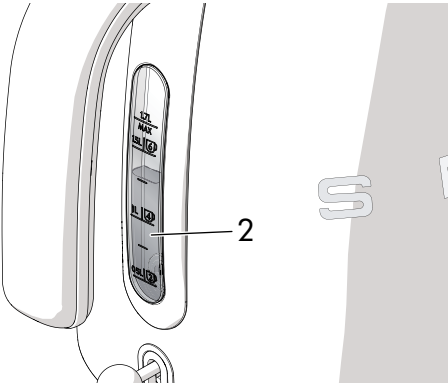
3. Appuyez sur le bouton (1) pour ouvrir le couvercle.



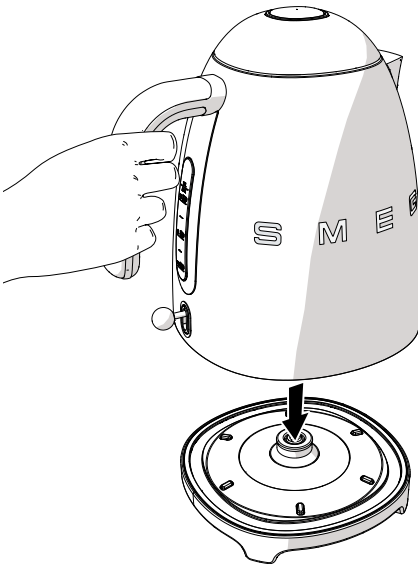
2. Enlevez la bouilloire de la base en la saisissant par la poignée.



4. Remplissez avec de l'eau jusqu'au niveau souhaité en se référant aux crans de l'indicateur de niveau (2).

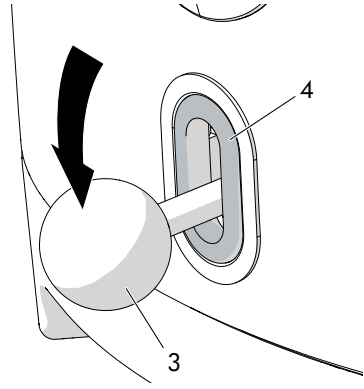


5. Refermez le couvercle et posez la bouilloire sur la base.



6. Branchez la fiche sur la prise de courant.

7. Déplacez le levier (3) vers le bas pour allumer la bouilloire. La DEL (4) s'allume en devenant blanche.



8. Au terme de l'ébullition, le levier se place dans la position éteinte et la DEL s'éteint.
9. Saisissez la bouilloire par la poignée pour verser le contenu dans les tasses.



Risque de brûlures

- Au terme de l'ébullition, attendez quelques secondes et versez l'eau lentement pour éviter les fuites et les éclaboussures.
- Ne remplissez pas la bouilloire au-delà du niveau maximum (1,7 litre) pour éviter de vous brûler en versant le liquide.
- N'inclinez pas excessivement la bouilloire à la fin du réchauffage pour éviter de vous brûler avec des éclaboussures d'eau bouillante.
- N'approchez pas trop le visage du couvercle pour éviter les brûlures dues à l'échappement de vapeur bouillante.

4 Nettoyage et entretien

4.1 Avertissements



Utilisation impropre Danger d'électrocution

- Retirez la fiche de la prise de courant avant de nettoyer la bouilloire.



Appareil chaud Risque de brûlures

- Laissez refroidir l'appareil avant de procéder au nettoyage.



Utilisation impropre Risque de dommages aux surfaces

- N'utilisez pas de jets de vapeur pour nettoyer l'appareil.
- N'utilisez pas de produits de nettoyage à base de chlore, d'ammoniaque ou d'eau de Javel.
- N'utilisez pas de détergents abrasifs ou corrosifs (ex. produits en poudre, détachants et éponges métalliques).
- N'utilisez pas de matériaux rêches, abrasifs, ou de racloirs métalliques tranchants.

4.2 Nettoyage des surfaces

Pour une bonne conservation des surfaces, nettoyez-les régulièrement après chaque utilisation, après les avoir laissées refroidir.

4.3 Nettoyage ordinaire quotidien

N'utilisez que des produits spécifiques ne contenant ni substances abrasives ni acides à base de chlore.

Versez le produit sur un chiffon humide et passez-le sur la surface, repassez soigneusement et séchez avec un chiffon doux ou en microfibre.

Pour nettoyer le filtre, consultez le paragraphe 4.4 Nettoyage du filtre.



Suggestions et conseils pour l'utilisateur

Nettoyez les parois extérieures et effectuez les opérations de nettoyage indiquées au paragraphe « 3.1 Avant la première utilisation » du 2 au point 6 en cas d'inutilisation prolongée de la bouilloire.

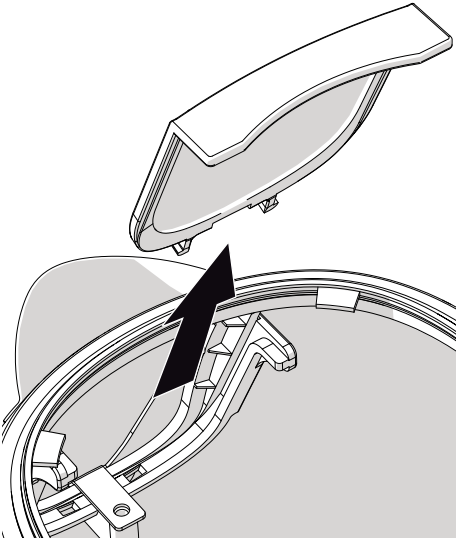
4.4 Nettoyage du filtre



Important

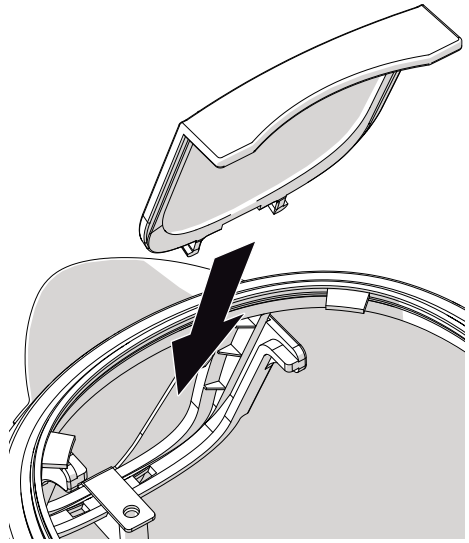
Lavez le filtre avec les mains propres et sans résidus de savon, de crème ou d'autres produits risquant de polluer l'eau.

1. Ouvrez le couvercle et extrayez le filtre de son logement.



2. Lavez le filtre sous l'eau courante et utilisez une brosse souple.

3. Réinsérez le filtre dans son logement derrière le bec de la bouilloire.





4.5 Décalcification

Éliminez régulièrement le calcaire qui s'est déposé à l'intérieur de la bouilloire pour prolonger la durée de vie de votre appareil, garantir de hautes performances et favoriser les économies d'énergie.

La bouilloire peut être décalcifiée avec un produit anticalcaire spécifique.



Utilisation impropre

Danger de dommage pour l'appareil

- N'utilisez pas de produits anticalcaire pour le nettoyage de la salle de bains ou de la cuisine ou des produits qui contiennent des parfums.

Laissez agir le produit anticalcaire, puis rincez abondamment, faites bouillir l'eau et jetez-la. Répétez cette opération au moins deux fois pour éliminer les résidus de produit.

On peut également utiliser du vinaigre blanc.

Procéder comme suit :

1. Remplissez la bouilloire d'eau (1 litre) et faites bouillir.
2. Versez le vinaigre blanc (de 0,1 à 0,5 l suivant la quantité de calcaire à éliminer).
3. Laissez agir toute une nuit.
4. Videz la bouilloire.
5. Remplissez la bouilloire d'eau et faites bouillir. Ensuite, videz la bouilloire. Répétez cette opération au moins deux fois.



Suggestions et conseils pour l'utilisateur

- Les dépôts calcaires peuvent provoquer l'extinction de la bouilloire durant l'utilisation avant le point d'ébullition. En outre, les temps d'ébullition peuvent se prolonger.
- En cas d'utilisation quotidienne ou si le versement est de moins en moins efficace, décalcifiez la bouilloire et le filtre plus fréquemment.
- Dans certaines régions, la dureté de l'eau est plus importante. Celle-ci pourrait être plus trouble et laisser des résidus sur les parois de la bouilloire. Dans ce cas, nettoyez la partie interne de la bouilloire plus fréquemment ou utilisez de l'eau épurée.



4.6 Que faire si...

Problème	Cause	Solution
Versement de moins en moins efficace	Présence de calcaire dans le filtre	Contrôlez la position et la propreté du filtre.
L'appareil s'éteint avant d'atteindre l'ébullition	Dépôt de calcaire excessif au fond de la carafe	Décalcifiez plus fréquemment
	On a versé peu d'eau	Augmentez la quantité d'eau pour atteindre au moins le niveau minimum
L'appareil ne s'allume pas	Activation du dispositif de sécurité due à un fonctionnement sans eau	Laissez refroidir la bouilloire avant d'activer un nouveau cycle d'ébullition
	La fiche n'est pas correctement branchée sur la prise.	Branchez la fiche sur la prise de courant. N'utilisez ni des adaptateurs ni des rallonges. Contrôlez que l'interrupteur général est activé
	Le câble est défectueux	Demandez à un Centre d'Assistance agréé de remplacer le câble
	Absence de courant électrique	Contrôlez que l'interrupteur général est activé

Sehr geehrter Kunde,

*Wir danken Ihnen für den Kauf des kleinen Haushaltsgerätes der Sonderausgabe von
Smeg – Dolce&Gabbana, Sicily is my love.*

*Smeg und Dolce&Gabbana vereinen ihren künstlerischen Geist und erschaffen eine
einzigartige Kollektion, original Made in Italy, die von Smeg mit der unverwechselbaren
Kreativität von Dolce&Gabbana realisiert wird.*

*Wir hoffen, dass Sie Ihr neues Haushaltsgerät voll und ganz schätzen werden, verbleiben
wir mit freundlichen Grüßen.*

SMEG S.p.A.

1 Hinweise	70
1.1 Einleitung	70
1.2 Dieses Bedienungshandbuch	70
1.3 Zweckbestimmung	70
1.4 Allgemeine Sicherheitshinweise	71
1.5 Haftung des Herstellers	73
1.6 Typenschild	73
1.7 Entsorgung	73
2 Beschreibung	74
2.1 Beschreibung des Gerätes	74
2.2 Beschreibung der Teile	75
3 Gebrauch	77
3.1 Vor dem ersten Gebrauch	77
3.2 Funktionsweise	78
4 Reinigung und Wartung	80
4.1 Hinweise	80
4.2 Reinigung der Oberflächen	80
4.3 Tägliche Reinigung	80
4.4 Reinigung des Filters	81
4.5 Wasserenthärtung	82
4.6 Was tun, wenn...	83

Wir empfehlen Ihnen, dieses Bedienungshandbuch sorgfältig durchzulesen. Hier finden Sie wichtige Hinweise, um die Ästhetik und Funktionalität Ihres Gerätes erhalten zu können.

Weitere Informationen zu den Produkten sind auf der Internetseite www.smeg.com verfügbar.



1 Hinweise

1.1 Einleitung

Wichtige Hinweise für den Benutzer:

Hinweise



Allgemeine Informationen über dieses Bedienungshandbuch, die Sicherheit und die Entsorgung.

Beschreibung



Beschreibung des Geräts.

Gebrauch



Informationen zur Verwendung des Geräts.

Reinigung und Wartung



Anweisungen zur richtigen Reinigung und Wartung des Gerätes.



Sicherheitshinweise



Information



Empfehlung

1.2 Dieses Bedienungshandbuch

Das vorliegende Bedienungshandbuch ist ein fester Bestandteil des Gerätes und ist deshalb für die ganze Lebensdauer des Gerätes sorgfältig und in Reichweite aufzubewahren.

1.3 Zweckbestimmung

- Das Gerät nur in geschlossenen Räumen verwenden.
- Das Gerät wurde insbesondere für die Verwendung in Privathaushalten realisiert. Es ist ausschließlich zum Aufkochen von Wasser bestimmt. Das Gerät nicht zu anderen, seiner Bestimmung nicht entsprechenden Zwecken verwenden.
- Das Gerät ist nicht für den Betrieb mit externen Zeitschaltuhren oder mit Fernbedienungssystemen vorgesehen.
- Die Verwendung dieses Gerätes ist Personen mit eingeschränkten körperlichen, sensorischen oder geistigen Fähigkeiten (sowie Kindern) oder Personen, die keine Erfahrung im Umgang mit Elektrogeräten haben, nicht erlaubt, es sei denn, sie werden von Erwachsenen, die für ihre Sicherheit verantwortlich sind, angewiesen und beaufsichtigt.
- Kinder dürfen nicht mit dem Gerät spielen. Das Gerät außer Reichweite von Kindern aufbewahren.



1.4 Allgemeine Sicherheitshinweise

Die Sicherheitshinweise für eine sichere Verwendung des Gerätes befolgen.

- Dieses Bedienungshandbuch vor der Benutzung des Gerätes sorgfältig durchlesen.
- Das Gerät, das Versorgungskabel, den Stecker oder die Basisstation nicht ins Wasser oder in andere Flüssigkeiten tauchen.
- Das Gerät nicht im Geschirrspüler spülen.
- Das Gerät nicht verwenden, wenn das Versorgungskabel oder der Stecker beschädigt sind oder wenn das Gerät auf den Boden gefallen ist oder aus irgendeinem Grund beschädigt wurde.
- Das Versorgungskabel nicht auf scharfe Kanten legen und nicht lose hängen lassen.
- Das Versorgungskabel vor Hitze und Öl schützen.
- Das Gerät niemals oberhalb oder in der Nähe von eingeschalteten Gas- oder Elektroherden oder im Innern eines angewärmten Ofens aufstellen.
- Das Gerät niemals auf Wasser empfindliche Oberflächen stellen. Die Spritzer könnten das Gerät beschädigen.
- Den Stecker niemals durch Ziehen am Kabel oder mit nassen Händen vom Stromnetz trennen.
- Bei Auftreten eines Defektes darf das Gerät ausschließlich von einem qualifizierten Techniker oder autorisierten technischen Kundendienst repariert werden.
- Niemals versuchen, eine Flamme oder einen Brand mit Wasser zu löschen. Das Gerät ausschalten, den Stecker herausziehen und die Flamme mit einem Deckel oder einer Löschdecke abdecken.
- Keine Veränderungen an diesem Gerät vornehmen.
- Niemals versuchen, das Gerät ohne den Eingriff eines qualifizierten Technikers zu reparieren.
- Ist das Netzkabel beschädigt, muss unverzüglich der technische Kundendienst kontaktiert werden.



Für dieses Gerät

- Der Wasserkocher kann während seines Betriebs hohe Temperaturen erreichen. Die heißen Oberflächen nicht berühren. Den Griff verwenden.
- Die Oberfläche des Heizwiderstands weist nach der Verwendung eine Restwärme auf. Vorsicht ist geboten.
- Bei lockerem Griff den Wasserkocher nicht verwenden.
- Den Wasserkocher nicht auf einer geneigten Fläche in Betrieb nehmen.
- Den Wasserkocher nicht in Betrieb setzen, solange der Heizwiderstand nicht vollständig vom Wasser bedeckt ist.
- Sich bei in Betrieb stehendem Wasserkocher nicht entfernen.
- Bei nicht in Betrieb stehendem Wasserkocher, muss vor seiner Reinigung oder bei einem Schaden der Stecker aus der Steckdose gezogen werden. Das Gerät vor der Reinigung auskühlen lassen.
- Den Wasserkocher immer mit dem angebrachten Kalkfilter verwenden.
- Den Wasserkocher nicht übermäßig füllen (max. 1,7 Liter), um heiße Wasserspritzer zu vermeiden.
- Den Wasserkocher ausschließlich zum Kochen von Wasser verwenden. Keine anderen Flüssigkeiten verwenden.
- Bei in Betrieb stehendem Wasserkocher den Deckel niemals öffnen.
- Vor dem Einschalten des Wasserkochers muss sichergestellt werden, dass der Deckel fest geschlossen ist.
- Den Wasserkocher nur mit der mitgelieferten Basisstation verwenden.
- Den Wasserkocher niemals mit Basisstationen anderer Hersteller verwenden.
- Ausschließlich die vom Hersteller angebotenen Originalersatzteile verwenden. Bei Verwendung von Ersatzteilen, die nicht vom Hersteller empfohlen werden, besteht Brand-, Stromschlag- und Verletzungsgefahr.
- Die Basisstation nicht auf geneigte Oberflächen stellen.
- Bei der Reinigung der Innenflächen des Wasserkochers keine Metallgegenstände oder Scheuerschwämme verwenden. Ausschließlich Spezialprodukte verwenden.
- Bei der Reinigung keine alkalihaltigen Reinigungsmittel verwenden, um Beschädigungen am Gerät zu vermeiden. Nur ein weiches Tuch und ein leichtes Reinigungsmittel verwenden.
- Den Wasserkocher immer vollkommen leeren, um keine Rückstände im Innern zu lassen, die eine Kalkbildung verursachen können.
- Der Gebrauch dieses Gerätes ist Kindern über 8 Jahren nur erlaubt, wenn sie unter Aufsicht stehen oder mit den Sicherheitsvorschriften und den damit verbundenen Risiken vertraut sind.
- Die Reinigung und die Wartung darf von Kindern über 8 Jahren nur durchgeführt werden, wenn sie unter Aufsicht stehen.
- Den Wasserkocher und das Netzkabel außer Reichweite von Kindern unter 8 Jahren aufbewahren.
- Kindern das Spielen mit dem Gerät untersagen.
- Das Gerät ist zur Verwendung in Privathaushalten bestimmt. Jeder andere Gebrauch wird als zweckwidrig angesehen. Es darf verwendet werden:
 - im Küchenbereich für die Geschäftsangestellten, in Büros und in anderen Arbeitsbereichen;
 - in Bauernhöfen/Agrotourismen;
 - von Hotel- und Moteltgästen und in Wohnungsanlagen;
 - in Bed and Breakfast.



1.5 Haftung des Herstellers

Der Hersteller haftet nicht für Personen- und Sachschäden, die auf die folgenden Ursachen zurückzuführen sind:

- die zweckwidrige Verwendung des Gerätes;
- die Nichtbeachtung des Bedienungshandbuchs;
- unbefugte Änderungen auch nur einzelner Gerätekomponenten;
- die Verwendung von nicht originalen Ersatzteilen.
- die Nichtbeachtung der Sicherheitshinweise.

1.6 Typenschild

Das Typenschild enthält technische Daten sowie die Seriennummer und das Prüfzeichen. Das Typenschild auf keinen Fall entfernen.

1.7 Entsorgung



Dieses Gerät muss getrennt von anderen Abfällen gesammelt werden (Richtlinie 2012/19/EG).

Dieses Gerät enthält, gemäß der gültigen europäischen Richtlinien, keine nennenswerte Menge an gesundheits- und umweltschädlichen Stoffen.

- **Die elektrischen Altgeräte dürfen nicht zusammen mit dem Hausmüll entsorgt werden.** Unter Einhaltung der von den einschlägigen Bestimmungen vorgegebenen Richtlinien müssen die Altgeräte bei geeigneten Sammelstellen für elektrische und elektronische Abfälle abgegeben werden. Auf diese Weise können eventuelle hochwertige Materialien der Altgeräte weiterverwertet und die Umwelt geschützt werden. Für weitere Informationen wenden Sie sich an die örtlichen Behörden oder die Verantwortlichen der Sammelstellen.

Die Verpackung unserer Produkte ist aus recyclingfähigem und umweltfreundlichem Material gefertigt.

- Die Verpackungsmaterialien bei geeigneten Sammelstellen abgeben.



Verpackungen aus Plastik Erstickungsgefahr

- Die Verpackung oder Teile davon nicht unbeaufsichtigt lassen.
- Vermeiden, dass Kinder mit den Plastikbeuteln der Verpackung spielen.



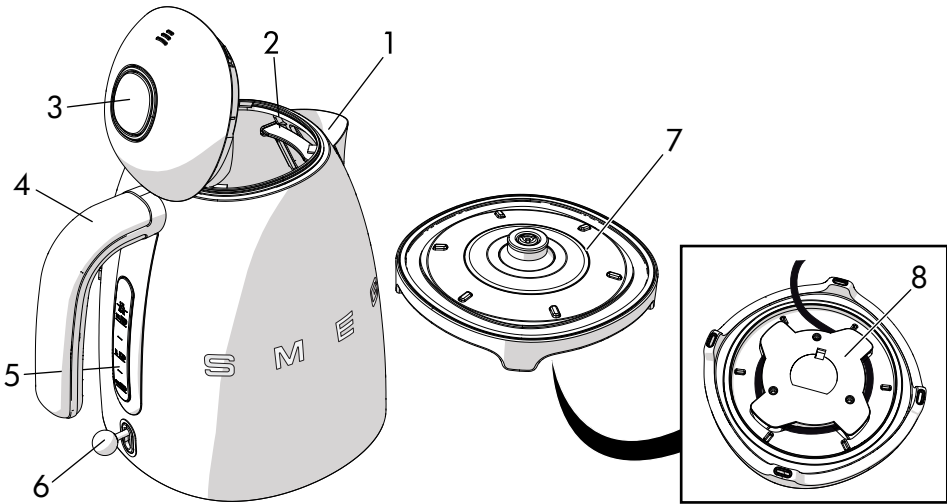
Elektrische Spannung Stromschlaggefahr

- Die Stromzufuhr unterbrechen.
- Das Netzkabel von der elektrischen Anlage trennen.
- Ausgüsse auf den Verbinder und die Versorgungsbasis vermeiden.



2 Beschreibung

2.1 Beschreibung des Gerätes

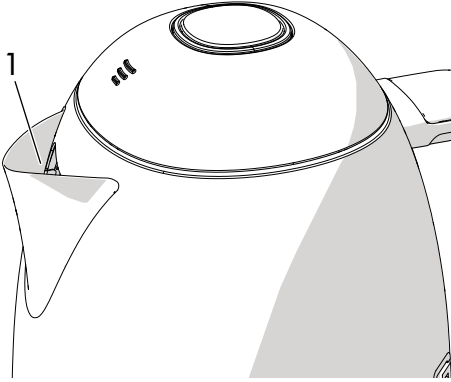


Modell KLF03 - Wasserkocher

- 1 Auslauf mit Tropfenstop
- 2 Kalkfilter
- 3 Deckel mit Push-Push-Öffnung
- 4 Griff
- 5 Wasserstandanzeige
- 6 Ein-/Ausschalthebel mit Leuchtanzeige
- 7 Basisstation mit 360°-Anschluss
- 8 Kabelaufwicklung (unter der Basisstation)

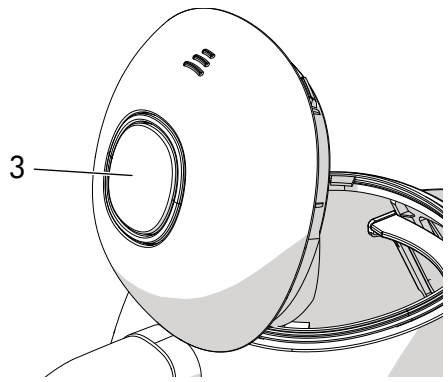
2.2 Beschreibung der Teile

Auslauf mit Tropfenstop (1)



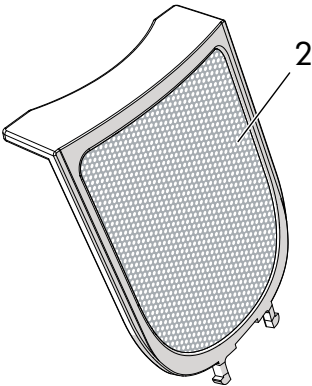
Der breite Auslauf aus Edelstahl ermöglicht ein leichteres Ausgießen des Inhalts.

Deckel mit Push-Push-Öffnung (3)



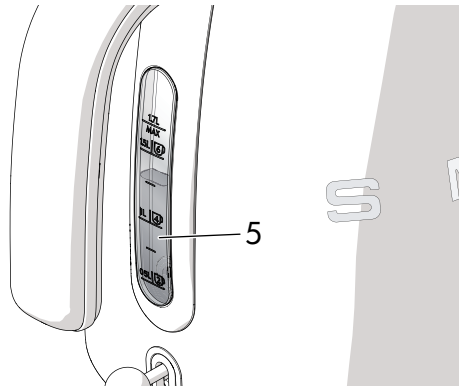
Der Deckel verfügt über eine Push-Push-Taste **(3)**, die eine progressive Öffnung ermöglicht, um ein plötzliches Austreten des heißen Dampfes zu vermeiden.

Kalkfilter (2)



Der Kalkfilter aus Edelstahl ist hinter dem Auslauf mit Tropfenstop angeordnet. Hält den im Wasser enthaltenen Kalk zurück.

Wasserstandanzeige (5)

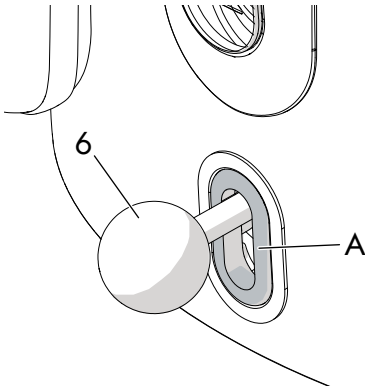


Die Anzeige zeigt die verschiedenen Füllstände zwischen einem Mindeststand von 0,5 Litern und einem Höchststand von 1,7 Litern sowie die Anzahl der entsprechenden Tassen an.

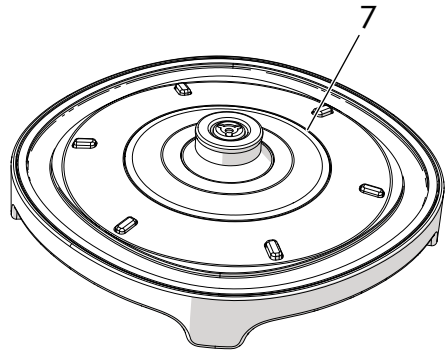


Beschreibung

Ein-/Ausschalthebel mit Leuchtanzeige (6)



Basisstation mit 360°-Anschluss (7)



Der Ein-/Ausschalthebel aktiviert/unterbricht den Aufkochzyklus. Bei in Betrieb stehendem Wasserkocher leuchtet die Led-Leuchte **A** weiß auf.

Der 360°-Anschluss ermöglicht, den Wasserkocher in einer beliebigen Position aufzustellen.

i Um Schäden am Gerät zu vermeiden, ist der Wasserkocher mit einer **Sicherheitsvorrichtung** ausgestattet, die bei ihrer Auslösung den Hebel in die Ausschaltposition hochschnellen lässt, wenn der Wasserkocher ohne Wasser ungewollt in Betrieb gesetzt wird.

In diesem Fall den Wasserkocher vor einem weiteren Aufkochzyklus abkühlen lassen.

3 Gebrauch



Stromschlaggefahr

- Den Netzstecker nur in eine geerdete Steckdose einstecken.
- Das Gerät darf nur an eine geerdete Steckdose angeschlossen und in Betrieb genommen werden.
- Keinen Adapter verwenden.
- Kein Verlängerungskabel verwenden.
- Die Nichtbeachtung dieser Hinweise kann tödliche Folgen haben, Unfälle oder Stromschläge verursachen.
- Ausgüsse auf den Verbinder und die Versorgungsbasis vermeiden



Ratschläge für den Benutzer

- Um Schäden am Gerät zu vermeiden, den Wasserkocher nicht zum Aufwärmen von anderen Flüssigkeiten verwenden.
- Um das Verschwenden von Wasser, Strom und Zeit zu vermeiden, nur die erforderliche Wassermenge zum Kochen bringen.
- Um die Qualität der heißen Getränke zu verbessern, sollte immer frisches Wasser verwendet werden.

Zur Verlängerung der Lebensdauer des Gerätes:

- Nach jedem Gebrauch das restliche Wasser im Wasserkocher ausgießen.
- Die Kalkschicht im Innern des Wasserkochers regelmäßig entfernen.

3.1 Vor dem ersten Gebrauch

1. Alle Aufkleber und Etiketten entfernen und die Außenflächen des Wasserkochers mit einem feuchten Tuch reinigen.
2. Den Filter hinter dem Auslauf herausnehmen und unter laufendem Wasser auswaschen.
3. Den Filter in korrekter Position wieder einsetzen.
4. Den Wasserkocher von der Basisstation nehmen, die Taste zum Öffnen des Deckels drücken und bis zum Höchststand mit Wasser füllen.
5. Den Deckel erneut schließen, den Wasserkocher auf die Basisstation stellen und den Einschalthebel nach unten drücken.
6. Das Aufkochen des Wassers abwarten und den Wasserkocher leeren. Diesen Vorgang mindestens dreimal wiederholen.



Heiße Oberflächen

- Oberflächen, die sich erhitzen.

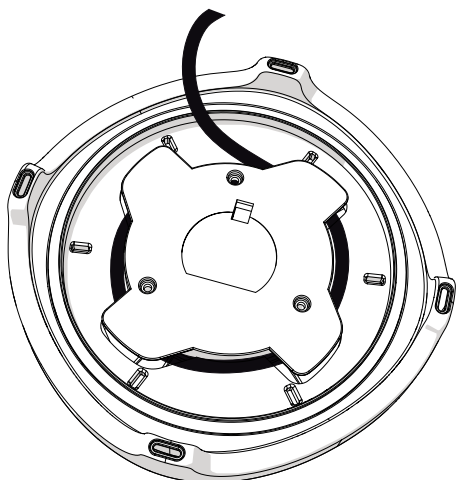
- Eventuelle Fleckenränder oder Flecken im Innern des Wasserbehälters sind normal und gehen auf die Prüfungen der Funktionstüchtigkeit zurück, der jedes Gerät vor dem Verpacken regelmäßig unterzogen wird.



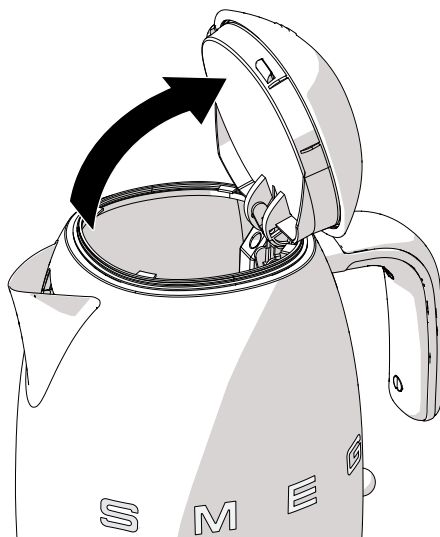
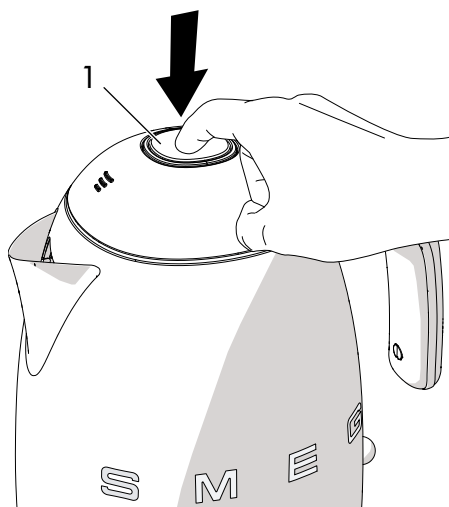
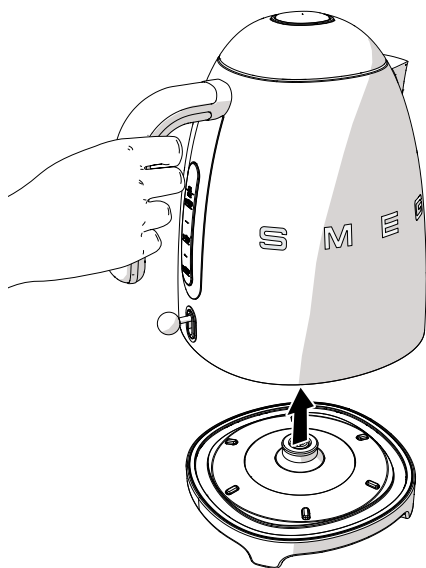
3.2 Funktionsweise

1. Sofern erforderlich, das Kabel an der Unterseite des Gerätes aufwickeln.

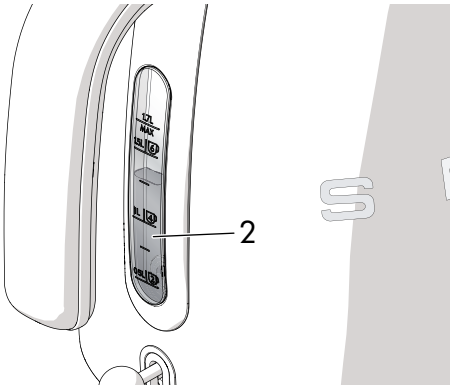
3. Die Taste (1) zum Öffnen des Deckels drücken.



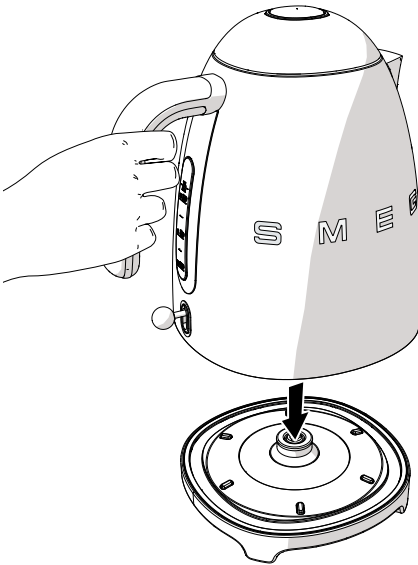
2. Den Wasserkocher am Griff von der Basisstation nehmen.



4. Bis zum gewünschten Füllstand mit Wasser auffüllen, wobei auf die Kerben auf der Standanzeige (2) geachtet werden muss.

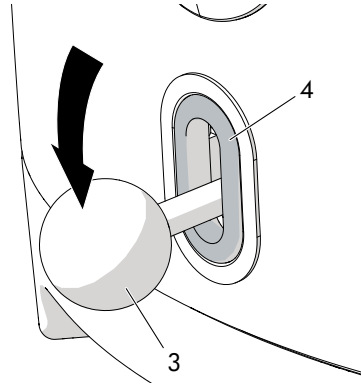


5. Den Deckel erneut schließen und den Wasserkocher auf die Basisstation stellen.



6. Den Netzstecker in die Steckdose einstecken.

7. Zum Einschalten des Wasserkochers den Hebel (3) nach unten drücken. Die Led-Leuchte (4) leuchtet weiß auf.



8. Nach Erreichen des Siedepunkts springt der Hebel in die Ausschaltposition und die Led-Leuchte erlischt.
9. Den Wasserkocher am Griff nehmen und den Inhalt in die Tassen gießen.



Verbrennungsgefahr

- Nach Erreichen des Siedepunkts einige Sekunden lang abwarten und dann das Wasser langsam in die Tassen gießen, um Spritzer zu vermeiden.
- Um beim Ausgießen der Flüssigkeit Verbrennungen zu vermeiden, den Wasserkocher niemals über den Höchststand (1,7 Liter) füllen.
- Zur Vermeidung von Verbrennungen durch heiße Wasserspritzer den Wasserkocher nach Erreichen des Siedepunkts nicht übermäßig neigen.
- Das Gesicht niemals nahe an den Deckel halten, um Verbrennungen durch Austreten des heißen Dampfes zu vermeiden.



4 Reinigung und Wartung

4.1 Hinweise



Unsachgemäßer Gebrauch Stromschlaggefahr

- Vor der Reinigung des Wasserkochers den Stecker aus der Steckdose ziehen.



Heißes Gerät Verbrennungsgefahr

- Das Gerät vor der Reinigung auskühlen lassen.



Unsachgemäßer Gebrauch Gefahr von Schäden an den Oberflächen

- Das Gerät nicht mit einem Dampfstrahl reinigen.
- Bei der Reinigung keine chlor-, ammoniak- oder bleichmittelhaltige Produkte verwenden.
- Keine scheuernden oder ätzenden Reinigungsmittel verwenden (z.B. Scheuermittel, Fleckenentferner oder Metallschwämme).
- Keine raue oder scheuernde Materialien bzw. scharfkantige Metallschaber verwenden.

4.2 Reinigung der Oberflächen

Um die Oberflächen in bestem Zustand zu erhalten, sollten sie, nach Auskühlung, nach jedem Gebrauch regelmäßig gereinigt werden.

4.3 Tägliche Reinigung

Immer nur Produkte verwenden, die keine scheuernden oder säurehaltigen Substanzen auf Chlorbasis enthalten.

Das Produkt auf einen feuchten Lappen geben und auf die Flächen auftragen. Sorgfältig spülen und mit einem weichen Tuch oder Lappen aus Mikrofaser abtrocknen.

Beziehen Sie sich für die Reinigung bitte auf Abschnitt 4.4 Reinigung des Filters.



Ratschläge für den Benutzer

Bei längerer Nichtbenutzung des Wasserkochers die Außenflächen reinigen und die im Abschnitt „3.1 Vor dem ersten Gebrauch“ unter Punkt 2 bis 6 angeführten Reinigungsvorgänge durchführen.

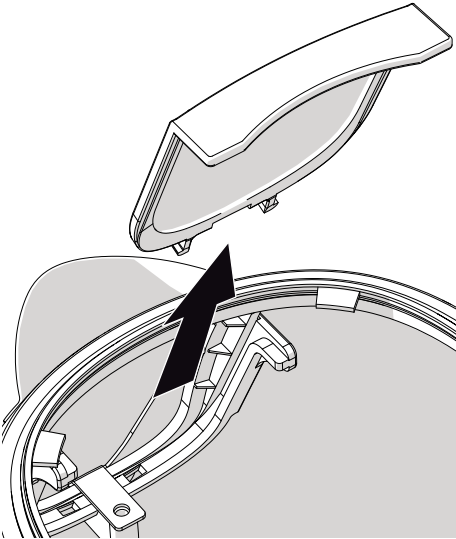
4.4 Reinigung des Filters



Wichtig

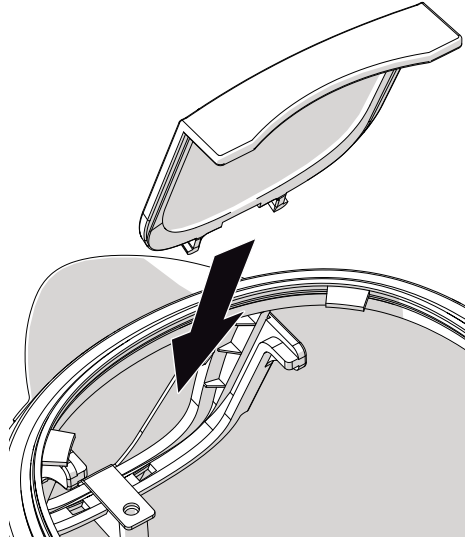
Den Filter reinigen, wobei darauf geachtet werden muss, dass die Hände sauber sind und keine Rückstände von Seife, Cremen oder anderen Produkten, die das Wasser verunreinigen können, aufweisen.

1. Den Deckel öffnen und den Filter aus seiner Aufnahme nehmen.



2. Den Filter unter laufendem Wasser und mit einer weichen Bürste reinigen.

3. Den Filter erneut in seine Aufnahme hinter dem Auslauf des Wasserkochers einsetzen.





4.5 Wasserenthärtung

Die regelmäßige Entfernung des im Innern des Wasserkochers abgelagerten Kalks verlängert die Lebensdauer des Gerätes, garantiert höhere Leistungen und begünstigt die Stromeinsparung.

Der Wasserkocher kann mit einem spezifischen Kalkentferner entkalkt werden.



Unsachgemäßer Gebrauch Schadensgefahr am Gerät

- Keine Kalkentferner für die Reinigung des Badezimmers oder der Küche oder Parfüm enthaltende Produkte verwenden.

Den Kalkentferner einwirken lassen, danach mit ausreichender Wassermenge abspülen, Wasser aufkochen lassen und mindestens zweimal abgießen, um eventuelle Rückstände des Produktes vollständig zu entfernen.

Andernfalls kann auch Weißweinessig verwendet werden.

Es muss folgendermaßen vorgegangen werden:

1. Den Wasserkocher mit Wasser (1 Liter) auffüllen und aufkochen lassen.
2. Weißweinessig aufgießen (zwischen 0,1 und 0,5 l je nach Kalkmenge).
3. Eine Nacht lang einwirken lassen.
4. Den Wasserkocher leeren.
5. Den Wasserkocher mit Wasser auffüllen und aufkochen lassen. Dann den Wasserkocher leeren. Diesen Vorgang mindestens zweimal wiederholen.

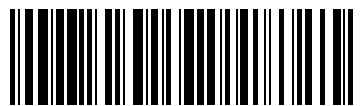


Ratschläge für den Benutzer

- Die Kalkablagerungen können den Betrieb des Wasserkochers vor Erreichen des Siedepunkts unterbrechen. Zudem kann sich die Zeit zum Erreichen des Siedepunkts verlängern.
- Bei täglichem Gebrauch oder in dem Fall, in dem sich die auslaufende Flüssigkeit verringert, müssen der Wasserkocher und der Filter häufiger gereinigt werden.
- In einigen Gebieten ist die Wasserhärte höher und das Wasser kann daher trüber sein und Rückstände an den Innenflächen des Wasserkochers ablagern. In diesem Fall müssen die Innenflächen des Wasserkochers häufiger gereinigt oder gereinigtes Wasser verwendet werden.

4.6 Was tun, wenn...

Problem	Ursache	Lösung
Verminderung der Ausgussmenge	Kalk im Filter	Die Position und die Verschmutzung des Filters überprüfen
Das Gerät schaltet sich vor Erreichen des Siedepunkts aus	Auf dem Boden des Wasserbehälters hat sich übermäßig Kalk abgelagert	Häufiger entkalken
	Zu wenig Wasser	Die Wassermenge mindestens bis zum Mindeststand erhöhen
Das Gerät schaltet sich nicht ein	Die Sicherheitsvorrichtung wurde ausgelöst, da der Wasserkocher ohne Wasser in Betrieb gesetzt wurde	Den Wasserkocher vor einem erneuten Aufkochzyklus abkühlen lassen
	Der Netzstecker ist nicht richtig in die Steckdose eingesteckt.	Den Netzstecker in die Steckdose einstecken. Keine Adapter oder Verlängerungskabel verwenden. Sicherstellen, dass der Hauptschalter eingeschaltet ist
	Das Kabel ist defekt	Das Kabel durch einen autorisierten Kundendienst austauschen lassen.
	Keine Stromversorgung	Sicherstellen, dass der Hauptschalter eingeschaltet ist



914779549/A

メーカーは製品改良のため、予告なく変更する権利を有します。そのため、この取扱説明書に記載されている内容は参考資料であり、必ずしもその正確性を保証するものではありません。

Il costruttore si riserva di apportare senza preavviso tutte le modifiche che riterrà utili al miglioramento dei propri prodotti. Le illustrazioni e le descrizioni contenute in questo manuale non sono quindi impegnative ed hanno solo valore indicativo.

The manufacturer reserves the right to make any changes deemed useful for improvement of its products without prior notice. The illustrations and descriptions contained in this manual are therefore not binding and are merely indicative.

Le fabricant se réserve la faculté d'apporter, sans préavis, toutes les modifications qu'il jugera utiles pour l'amélioration de ses produits. Les illustrations et les descriptions figurant dans ce manuel ne sont pas contraignantes et n'ont qu'une valeur indicative.

Der Hersteller behält sich vor, ohne vorherige Benachrichtigung alle Änderungen vorzunehmen, die er zur Verbesserung seiner Produkte für nützlich erachtet. Die in diesem Handbuch enthaltenen Illustrationen und Beschreibungen sind daher unverbindlich und dienen nur zur Veranschaulichung.

